

## 学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻 解題と翻刻（第一軸・第二軸）

武藤 那賀子

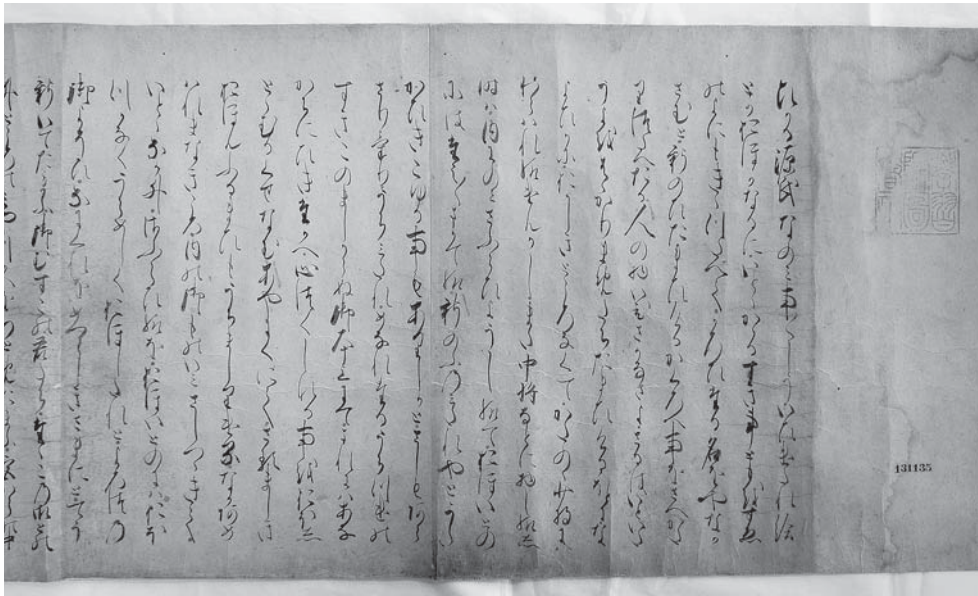
### 論文要旨

学習院大学日本語日本文学科は、伝藤原為家筆の『源氏物語』「帚木」巻の写本を所蔵している。当該本は、河内本系統の本文を持っている。縦の寸法が三〇cmを超えた大型本であることから、当該本は、大型冊子本として知られる尾州家河内本と元の大きさがほぼ等しいと考えられ、またその筆跡と書風から、書写時期も同じ頃だと考えられる。これらのことから、当該本は金沢文庫旧蔵と思われる尾州家河内本と密接な関係があるといえ、製作場所を同じくする可能性が高いと考えられる。また、今日河内本の代表格である尾州家本を相対化する上で、当該本は非常に重要な存在であるといえる。当該本の本文は、既に加藤洋介氏によって取り上げられ、他の河内本の本文との比較が行なわれたが、書誌解題は公になっていない。また、『源氏物語』の鎌倉時代の写本は大変貴重であることから、本稿では、この貴重書の書誌解題を掲げ、全翻刻を載せることか

キーワード 【河内本源氏物語、帚木巻、鎌倉写本、伝藤原為家筆、尾州家本】

学習院大学日本語日本文学科は、伝藤原為家筆の『源氏物語』「帚木」巻の写本を所蔵している。これは、「河内守源光行、親行父子——殊更に親行が、多年の努力を費して、主要な八本及びその他合せて二十余種の本文を以って校勘した<sup>①</sup>」といわれる河内本の一本である。

当該本は、縦の寸法が三〇cmを超えた大型本だが、縦の寸法が三〇cmを超える大型冊子本が稀であることから、この寸法の河内本『源氏物語』は一具として捉えられ、さらに、同じく大型冊子本であり、金沢文庫旧蔵とされる尾州家河内本と密接な関係があると考えられる<sup>②</sup>。また筆跡と書風から、その書写時期も、尾州家河内本と同じ鎌倉中期と考えられる。しかし、この一連の河内本『源氏物語』で伝存するのは、当該本のように卷子装に改装されたものや、断簡のみで残るものが多く、その数も少ない<sup>③</sup>。このため、今日、河内本の代表格である尾州家本の位置を見定める上で、当該本は非常に重



(図 1) 「帚木」巻冒頭

要な存在であるといえる。

当該本の本文は、加藤洋介『河内本源氏物語校異集成』（風間書房、二〇〇一年）で取り上げられ、他の河内本の本文との比較が行なわれたが、書誌解題は公にされていない。また、『源氏物語』の鎌倉時代における写本は大変貴重であることから、本稿では、この貴重書の書誌解題を掲げるとともに、全翻刻を載せる次第である。<sup>(4)</sup>

**書誌解題**

【作品名】 「は、き、」（箱書）

【請求番号】 九一三・三六／五〇一六

【外題】 (ナシ)

【内題】 (ナシ)

【書写年代】 鎌倉時代中期（尾州家河内本と同時代か）

【残存状態】 一卷全揃い

【装訂】 冊子改装卷子装 三軸

【蔵書印】 各巻表紙見返しに「学習院図書館」朱方印

【表紙】 後補桑染色地支子色菊花松葉散し浮模様絹表紙。改

装時のものか。

【見返し】 銀箔紙

【本文料紙】 烏の子紙

【寸法】 縦三二・二 cm

第一軸：全長八m一二・五cm

見返し 横三七・〇cm

前補紙 横一一・七cm程度。本文料紙と同紙。

一紙 横二一・〇～二二・一cm（ただし、第一

紙のみその前に本文と同じ紙が一・七

cm程度破り継ぎで足されており、横三

四・二cmになっている）

後補紙 横二八・五cm（後補別紙）

第二軸：全長八m三五・二cm

見返し 横三六・六cm

前補紙 横一七・二cm（後補別紙）

一紙 横二〇・六～二一・九cm

後補紙 横三〇・〇cm（後補別紙）

第三軸：全長八m一六・六cm

見返し 横三八・〇cm

前補紙 横一八・三cm（本文とは別紙）

一紙 横二一・一～二二・六cm

後補紙 横二二・五cm（本文とは別紙）

約二十七・〇cm

第一軸：墨付三十四紙

第二軸：墨付三十五紙（第十八紙と第十九紙が誤っ

て「十九」「十八」の順序で継がれており、

第十九紙に「後」、第十八紙に「前」と朱

墨で書かれた付箋が貼られている。なお、

この付箋は改装時のものと思われる。）

第三軸：墨付三十四紙

【一行字数】

一行あたり十八～二十三文字（一筆）

【和歌表記】

歌は二字下り。末尾は地の文に続く。（ただし、第

一軸には和歌ナシ）

【朱点合点】

朱点は全軸にあり。古いものと新しいものが混在し

ているが、全て行の中央に記されている。ただし、

尾州家本に比べ、朱点の数は少ない。朱合点は、第

一軸の前半にのみあり。朱合点は、尾州家本に比べ、

多少多い。

【奥書】

象牙。改装時のものと思われる。

【紐】

油性無地。近代に付け替えられたか。

【その他伝来】

第一軸表紙脇（本文裏）に「辛未十」と墨書き。こ

のことから、卷子装に改装されたのが「辛未の年の

十月」だとわかる。

全軸表紙脇（本文裏）に「文私大研基設備 昭31年

（112）」の印有り。この印から、昭和三十一年に、

神田神保町にある一誠堂書店から学習院が買ったと

思われる。

【字高】

【紙数】

## 【改装】

当該本は、大型冊子本（推定縦三五cm横二五cm）を卷子本へと改装したものである。元々は綴葉装であったために、一枚の紙を二枚に剥いで、半葉ずつ継いでいる。卷子本にする際には一枚の大きな雲母台紙に二紙ずつ継いでいるが、その継ぎ方は、第一軸が偶数紙・奇数紙の順、第二軸が奇数紙・偶数紙の順、第三軸が奇数紙・偶数紙の順である。また、第一軸目第一紙は、丁の表であることが改装前の冊子を捲る際にできる汚れからわかる。

## 【行数】

冊子時の半葉行数は、十行（第三軸最終紙のみ七行。）

## 【保存状態】

良。ただし、第一軸の第二十紙・第二十一紙の上部にそれぞれ虫食いが二箇所、第二軸の表紙から最後まで続く小さな虫食い一箇所あり。

## 【箱】

かぶせ蓋桐箱。江戸時代後期のものか。側面に「は、き、為家卿」と墨で書かれ、蓋裏面に「一誠堂」の貼紙あり。

## 【袋】

軸を入れる袋（外側は縹色地に黄朽葉色の植物、内側は無地黄楡染色）が三つあり。江戸時代中期ごろのものか。

## 注

(1) 山岸徳平「河内本源語の価値」『文学』五一—一〇、一九三七年

(2) 高田信敬は、「源氏物語の古筆切 二題」（紫式部学会『源氏物語と

源氏以前 研究と資料』武蔵野書院、一九九四年）で、「伝為家筆大四半切、もとをたどれば大型列帖装冊子本は、縦三〇糎横五〇糎を越える科紙を二つにおり、重ね綴じて製作される。この料紙寸法、鎌倉時代の手紙の料紙として金沢文庫に伝来する標準的な大きさの縦三二〜三五糎横五〇〜五五糎にきわめて近い。書籍と手紙とでは料紙の持つ意味が異なるであろうけれども、尾州家本の由来、河内守光行親行と鎌倉の深いゆかりを考えると、いろいろ夢の広がるところである。」と述べる。ただし、高田信敬は、同筆であるもののみを一具の源氏物語として取り扱うという姿勢であるのに対し、岡嶋偉久子（注3）は、「これらが僚巻であったことを確実に否定する事実はなく、むしろ様々な事象は僚巻である可能性を限りなく推測させる。」としている。本論では、同様の理由から岡嶋論を採る。

(3) 岡嶋偉久子「天理図書館蔵「伝俊成筆源氏物語鈴虫巻」・「尾州家河内本源氏物語」との対校から付稿「大成」収録「俊」本再考」（『ビブリア』一三九号、二〇一三年五月）。なお、大型冊子本源氏物語については、小林強「源氏物語関係古筆切資料集成稿」（『本文研究』第六集、和泉書院、二〇〇四年）、大内英範「河内本の本文について——尾州家本の本文態様と「伝為家筆本」——」（伊井春樹監修、伊藤鉄也編『講座源氏物語研究 第七巻 源氏物語の本文』おうふう、二〇〇八年）などの先行研究がある。

(4) 紙幅に制限があったため、第三軸の翻刻、および尾集家本との比較についての考察は別稿を用意する。

翻刻

【凡例】

- 一、改行箇所や和歌の書式は原本のままとし、利用の便を考え、紙毎に区切り、紙数と行数を付記した。なお、当該本を示した上で、隣の行に小字で尾州家本の翻刻を載せた。尾州家本の改行部分は「／」で示し、丁の表裏が変わる箇所は「／／」で示した。
- 一、原本に用いられている変体仮名は、すべて現行の平仮名に統一した。ただし、原本の平仮名中に片仮名を混用した箇所は、片仮名を平仮名に改めた。
- 二、ミセケチは、取り消し線（二重線）で示した。
- 二、傍記は、該当する文字の横にそのまま示した。
- 一、補入記号のない補入は「―」で示し、補入記号のある補入は「〈 〉」で示した。
- 一、朱点は「・」で、朱合点は「∟」で示した。尾州家本の朱点は、その位置から「・」だけでなく「∟」で示した箇所もある。
- 一、問題のある箇所については、注を各紙ごとに載せておく。

第一軸

【一紙】

- 1 ひかる源氏なのみ事くしう・いひけたれ給  
ひかる源氏・なのみ・事くしう・いひけたれ給・
- 2 とかおほかなるに・いと、かゝるすき事もをすゑ  
と・か・おほかなるに・いと、かゝるすき事もをすゑ
- 3 のよにもき、つたへて・かるひたる名をやなか  
のよにもき、つたへて・かるひたる名をやなか
- 4 さむと・しのひたまひけるかくろへ事をさへ・かた  
さんと・しのひ給ける・かくろへ事／をさへ・かた
- 5 りつたへたる人の物いひさかなさよ・さるはいといた  
りつたへたる人の物いひさかなさよ・さるはいといた
- 6 うよをは、かりまめたちたまひけるほとに・な  
う・よをは、かり・まめたち給／けるほとに・な
- 7 よひかに・おかしきところなくて・かたの、少将には  
よひかに・おかしきところなくて・かたの、少将には
- 8 わらはれ給けんかし・また中將などに物し給し  
わらはれ給けんかし・また・中將「なとに」／ものしたまひし
- 9 時は・内にのみさふらひようし給て・おほいとの  
時は・内にのみさふらひようし給て・おほいとの
- 10 にはたえくまかて給・しのみたれやとうた  
には・たえくまかて給・しのみたれやと・うた

【二紙】

- 1 かひきこゆる事もありしかと・さしもあら  
かひきこゆる事もあり／／しかと・さしも・あら
- 2 さりけり・うちみたれ・めなれたるうちつけの  
さりけり・うちみたれ・めな／れたるうちつけの
- 3 すきこのましからぬ御本上にて・まれにはあな  
すきこのましからぬ・御／本上にて・まれには・あな
- 4 かちにひきたかへ・心つくしなる事をおほし  
かちに・ひきたかへ・心／つくしなる事をおほし
- 5 と、むるくせなむ・／あやにくにて・さるましき  
と、むる・くせなむ・／あやにくにて・さるましき・
- 6 おほんふるまひもうちましりける・なかあめ  
おほんふるまひも・／うちましりける・なかあめ・
- 7 はれまなきころ・内の御ものいみさしつ、きて・  
はれまなきころ・／内の御物いみ・さしつ、きて・
- 8 いと、なかあ・さふらひ給を・おほいとのはおほ  
いと、・なかあ・さふら／ひ給を・おほいとのはおほ
- 9 つかなくうらめしくおほしたれと・よろつの  
つかなく・うらめし／く・おほしたれと・よろつの
- 10 御よそひ・なにくれをめつらしきさまにと・てう  
御よそひ・なにく／れを・めつらしきさまにと・てう<sup>御てう</sup>

【三紙】

- 1 しいてたまふ・御むすこの君たち・た、この御との  
しいて給／御むすこの君たち・た、この御との
- 2 ゐところのみやつかへをつとめたまふ・宮はらの中  
ゐところ／／のみやつかへを・つとめたまふ・宮はらの中
- 3 将は・なかにしたしくなれきこえたまひて・あそ  
将は・／なかにしたしく・なれきこえ給て・あそ
- 4 ひたはふれをも・人よりは心やすく物なれきこえ  
ひたはふれをも・人よりはこ、ろやすく・物なれきこえ／
- 5 たまへり・右のおと、のいたはりかしつきたまふす  
たまへり、右のおと、のいたはりかしつき給・す
- 6 みかは・このきみも・いともうくして・よにすきかま  
み／かは・この君も・いと物うくして・よにすきかま
- 7 しきあた人なり・さとにても・わか、たのしつら  
し／きあた人なり、さとにても・我かたのしつら
- 8 ひまはゆくして・君のいていりし給に・うちつれ  
ひま／はゆくして・君のいていりし給に・うちつれ
- 9 きこえ給つ、・よるひる・かくもんをも（あそひをも）・おさ  
く／たち
- 10 をくれす・いつくにても・まつはれきこえたまふほと  
をくれす・いつくにても・まつはれ／きこえたまふほと

【四紙】

- 1 に・おのつから・かしこまりもえおかす・心のうちにおに・をのつから・かしこまりも／えをかす・こゝろのうちに・おもふ事をもかくしあらすなむ・／つれきこえもふ事をも・かくし／あえずなん・むつれきこえ
- 2 たまひける・つれ／とふりく／らして・しめやかなる給ける・つれ／とふりく／らして・しめやかなる
- 3 よひのあめに・殿上にもおさ／人すくなに・御よひのあめに・殿上にも／おさ／人すくなに・御
- 4 とのゑととも・れいよりはのとやかなるに・おほととのゑととも・れいよりはのとやかなるに・おほと
- 5 なふらちかくて・ふみともなどみたまふついでに・ちなあふら・ちかくて・ふみ／ともなど・みたまふついでに・ち
- 6 かきみつしなる・いろ／のかなふみを・中将ひきいて・かきみつしなる・いろ／のかなふみを・中将ひきいて・
- 7 わりなうゆかしかれは・さりぬへきすこしはみせん・わりなう・ゆかし／かれは・さりぬへき・すこしはみせん・
- 8 かたわなるへきもこそとて・ゆるしたまはねは・そのかたわなるへき／もこそとて・ゆるしたまはねは・その
- 9 うちとけて・かたはらいしたとおほされんこそうちとけ／て・かたはらいしたとおほされんこそ・
- 10

【五紙】

- 1 ゆかしけれ・をしなへたるおほかたのは・かすならねと・ゆかし／けれ・をしなへたる・おほかたのは・かすならねと・／ほと／につけて・かきかはしてもみはへりなん・をのほと／につけて・かきかはしても・みはへりなん・を／のかし・うらめしきおり／・まぢかほならん・ゆ／ふくれ・などのこそ・みところはあらめとゑんすれは・やん事などのこそ・みところはあらめとゑんすれ／は・やむこと
- 2 なく・せちにかくしたまふへきなどは・かや／うに・おほそなく・せちにかくしたまふへきなどは・かや／うに・おほそ
- 3 うなるみつしなとにうちおきちらしたまふへくうなる・みつしなとに・うちをきちら／したまふへく
- 4 もあらず・ふかうとりおき給へかめれは・二のまぢのもあらず・ふかうとりをきたまふ／かめれは・二のまぢの
- 5 こゝろやすきなるへし・かたはしつゝみるに・ようさこゝろやすきなるへし・かた／はしつゝみるに・ようさ
- 6 ままなる物ともこそ侍／けれとて・心あてに・それか・ま／なる物ともこそ侍／けれとて・心あてに・それか・
- 7 かねかなと・ふなかに・いひあつるもあり・もてかねかなと・ふなかに・いひあつるもあり・もて
- 8
- 9
- 10

\*二行目の尾州家本の「の」のミセケチは朱。

【六紙】

- 1 はなれたる事も・おもひよせて・うたかふもおかしと  
はなれたる事も・おもひよ／せて・うたかふも・おかしと
- 2 おほせと・ことすくなにて・とかくまきはしつ、  
おほせと・ことすくなにて・／とかく・まきはしつ、
- 3 とりかくしたまうつ・そこにこそ・おほくつとへ  
とりかくしたまうつ・そこ／／にこそ・おほくつとへ
- 4 たまへらめ・すこしみはや・さてなん・このつしも・  
たまへらめ・すこしみはや・／さてなん・このつしも・
- 5 こ、ろよくひらくへきとの給へは・御覽しどころ  
こ、ろよく・ひらくへきとの／たまへは・御覽しどころ
- 6 あらむこそ・かたくはへらめなときこえ給・ついてに・  
あらんこそ・かたくはへら／めなときこえ給・ついてに・
- 7 女のこれはしもと・なむつくまきは・かたくも  
女のこれはしもと・なんつ／くまきは・かたくも
- 8 あるかなと・やう／／なむみたまへしらるゝ、た、うは  
あるかなと・やう／／なん・み／たまへしらるゝ、た、うは
- 9 へはかりのなさけにて・はしりかき・おりふしのいらへ・心  
へはかりのなさけにて・はし／りかき・おりふしのいらへ・心
- 10 えて・うちしなどはかりは・すいふん牌分によろしきも  
えて・うちしなどはかり／は・すいふ牌分によろしきも

【七紙】

- 1 おほかりとみたまふれと・なをそのかたを・とりいてん  
おほかりと・み給ふれと・／なを・そのかたを・とりいてむ・
- 2 えらひに・かならすもるまきは・いと・かたしや・わか心  
えらひに・かならす・／もるまきは・いと・かたしや・我こ、ろ
- 3 えたる事はかりを・をのかし、・心をやりて・われかし  
えたる事はかりを・をのかし、・心をやりて・われかし
- 4 こにうち思て・人をおとしめさまになど・かたはら  
こにうち思／／て・人をは・おとしめさまになど・かたはら
- 5 いたき事おほかめり・おやなとたちそひ・もてあ  
いたき事／おほかめり・おやなと・たちそひ・もてあ
- 6 かめて・おひさきこもれる・／まどのうちなるほとは・  
かめて・／おひさきこもれる・まどのうちなるほとは・
- 7 た、かたかとをき、つたへて・こ、ろをうこかす  
た、かたか／とをき、つたへて・心をうこかす
- 8 なるへし・かたちおかしう・うちおほとき・わかやか  
なるへし・かたち／おかしう・うちおほとき・わかやか
- 9 にて・まきる、事なきほど・はかなきすさひをも  
にて・まきる、事／なきほど・はかなきすさひをも・
- 10 人まねに・心いる、こともあるに・おのつからゆへ  
人まねに・心いる、／事もあるに・をのつからゆへ



【八紙】

- 1 ありて・しいつることもあり・みる人をくれたる  
ありて・しいつる事／もあり・みる人・をくれたる
- 2 かたをはいひかくし・さてもありぬへき事をは  
かたをはいひかくし・／さてもありぬへき事をは・
- 3 つくろひまねひいたすに・それしかあらしと・そら  
つくろひ・まねひいたすに・／それ・しかあらしと・そら
- 4 にか、はをしはかり思くたさむ・まことかとももて  
に・いか、は・をしはかり思く／たさむ・まことかと・みもて
- 5 ゆくに・みをとりせぬやうは・／／なくなんあるへきと・  
ゆくに・みをとりせぬやうは・／／なくなんあるへきと・
- 6 うめきたるけしきも・はつかしけなれは・いとなへて  
うめきたるけしきも・はつか／しけなれは・いとなへて
- 7 はあらねと・われもおほしあはする事やあらん・うち  
は・あらねと・我もおほしあ／はする事やあらん・うち
- 8 ほをゑみて・そのかたかともなき人はあらんやと  
ほをゑみて・その・かたかと／も・なき人はあらんやと・
- 9 の給へは・いとしかなりなむあたりには・たれかす  
のたまへは・いと・しかなり／なん・あたりには・たれか・す
- 10 かされより侍らん・とるかたなく、ちをしき、ほと  
かされより侍らん・とる／かたなく、ちおしききはと・

【九紙】

- 1 いうなりとおほゆはかりすくれたるとは・かすひと  
いうなりとおほゆはかりすくれたるとは・かすひと
- 2 しくこそはへらめ・人のしなたかくむまれぬ  
しくこそはへらめ・／人のしなたかく・むまれぬ
- 3 れは・人にもてかしたつ／かれて・かくる、事もおほ  
れは・人にもてかしたつ／かれて・かくる、事もおほ
- 4 く・しねんにそのけはひ・こよなかるへし・中のしな  
く・しね<sup>自</sup>むにそのけはひ・／こよなかるへし・中のしな
- 5 になん・人のこゝろ／をのかし、のたてたる・おもむきも・  
になん・人のこゝろ／をのかし、のたてたる・おもむきも・
- 6 みえわかるへき事・かた／おほかるへき・しものきさみ  
みえわかるへき／事・かた／おほかるへき・しものきさみ
- 7 といふになりぬれは・ことにみ、た、すかして・いとく  
といふになりぬれは・ことに・み、た、すかして・いと・く
- 8 まなけなるけしきなるもゆかしくて・そのしな／  
まなけ／なるけしきなるも・ゆかしくて・そのしな／
- 9 やいかに・いつれをかみのしなにおきてか・みつにわく  
や・いかに・いつれを・かみのしなに・をきてか・みつに／わく
- 10 へき・もとのしなたかくむまれながら・身は・しつみ・  
へき・もとのしなたかく・むまれながら・身は・／しつみ・

【一〇紙】

- 1 くらゐみしかくて・人けなきあたり・又なほ人  
くらゐ・みしかくて・人けなきあたり・又なほ<sup>点</sup>／人
- 2 のかんたちめなどまで・なりのほり・我はかほにて・  
のかむたちめ・などまで・なりのほり・我はかほにて・／
- 3 いへのうちをかさり・人におとらしと・おもへる・その  
いへのうちを・かさり・人におとらしと・おもへる・その／
- 4 けちめをは・いかゝわくへきと・ひたまふほとに・ひ  
けちめをはいかゝわくへきと・ひたまふほとに・ひ
- 5 たりのみまのかみ・藤しき部のそう・御物いみに  
たり・のみまのかみ・藤しき部のそう・御物いみに
- 6 こもらんとてまられる・やかてこの御方のとのゐに  
こもらん／とて・まられる・やかて・この御方のとのゐに
- 7 とてまいれり・よのすきものにて・ものよくいふ  
とてまいれり・よのすきものにて・ものよくいふ
- 8 を・中将まちとりて・このしな／をわきまへさた  
を・中将まちとりて・このしな／をわきまへさた
- 9 めあらそふ・いとぎゝにくき事おほかり・なり  
め・あらそふ・いとぎゝにくき事おほかり・なり
- 10 のほれとも・もとよりさるへ／きすぢならねは・世人  
のほれとも・もとよりさるへ／きすぢならねは・世人

【一一紙】

- 1 のおもへるさまも・さいへとなをことなり・又本上やん  
のおもへるさまも・さいへとなを・ことなり・又・本上・やむ
- 2 ことなきすぢなれと・よにふるたつきすくなく・  
事なきすぢなれと・よにふる・たつき・すくなく・
- 3 ときようつろひて・おほえおとろへぬれは・心は  
ときようつろひて・おほえ・おとろ／へぬれは・心は
- 4 こゝろとして・事たらず・わろひたるけはひそふ  
こゝろとして・事たらず・わろひたる／けはひそふ
- 5 わさなめれは・とり／に事はりて・中のしなにそを  
わさなめれは・とり／にことはりて・中／のしなにそを
- 6 くへき・さてす<sup>変</sup>両といひて・人のく<sup>副</sup>にの事にかゝつ  
くへき・さてす<sup>変</sup>両といひて・人のく<sup>副</sup>にの事にかゝつ
- 7 らひいとなみて・しなきたまれるなかにもきさみ／あ  
らひいとなみて・しなきたまれる／なかにも・きさみ／あ
- 8 りて・なかのしなのけしうはあらぬ・えりいてつへき  
りて・なかのしなのけしう／はあらぬ・えりいてつへき・
- 9 ころをひなり・なま／の上達部よりは・非参議の  
ころをひなり・なま／の／かむたちめよりは・非参議の
- 10 三四位どもの・よのおほえくちをしからす・もとのね  
三四位どもの・よのおほえくちをしからす・もとのね

【一二紙】

- 1 さしいやしからぬか・やすらかに身をもてなしふる  
さしいやしからぬ／か・やすらかに身をもてなしふる
- 2 まひたるは・いとかはらかなりや・いへのうちたらぬ  
まひたるは・／いと・かはらかなりや・いへのうち・たらぬ
- 3 事など・はたなかめるまゝに・よのそしりをもこと  
事など・はた・なかめるまゝに・よのそしりをもこと
- 4 にいたはらす・まはゆきまで・もてかすつけるむす  
にいたはらす／す・まはゆきまで・もてかすつける・むす
- 5 めなどのおとしめかたくおひいつるためし  
めなど／のおとしめかたく・おひいつるためし
- 6 とも・あまたあるへし・宮つかへにいてたちて・思かけ  
とも・あまた／あるへし・宮つかへにいてたちて・おもひかけ
- 7 ぬさいはひとりいつるためしとも・おほかりかし  
ぬ・さい／はひ・ひとりいつるためしとも・おほかりかし
- 8 なといへは・すへてにきは、しきによるへきな、  
なといへは・／すへてにきは、しきによるへきな、
- 9 りとて・わらひ給を・こと人のいはむやうに・心え  
りとて・わらひ／給を・こと人のいはんやうに・心え
- 10 すおほせらるゝと・中将にくむ・もとのしなに・とき  
す・おほせらるゝと・中将／にくむ・もとのしなに・とき

【一三紙】

- 1 よのおほえうちあひ・やん事なきあたりの・うちく  
よのおほえうちあひ・やむ／事なきあたりの・うちく
- 2 のもてなしけはひことなることなく・おくれたらん  
のもてなし・けはひ・こと／なる事なく・をくれたらん
- 3 は・さらにもいはす・なにをしてかくおひいて  
は・さらにもいはす・なに／をして・かく・おひいて
- 4 けむといふかひなくおほゆへし・うちあひてすくれ  
けむと・いふかひなく・おほゆへし・／うちあひてすくれ
- 5 たらむもことはり・これこそはさるへきほと、おほえ  
たらんも・ことはり・これこそは／さるへきほと、おほえ
- 6 て・めつらかなる事と・心もおとろくまし・なにかしか  
て・めつらかなる事と・こゝろも／おとろくまし・なにかしか
- 7 およふへきほとならねは・かみかかみは・すへてうち  
をよふへき・ほとならねは・／かみかかみは・すへてうち
- 8 おき侍ぬ・さてよにありと・しも人もしらすさひしく  
をき侍ぬ・さてよにありと／しも人もしらす・さひしく・
- 9 あはれたらんむくらのかどに・おもひのほかにらう  
あはれたらん・むく／らのかどに・おもひのほかにらう
- 10 たけならむ人の・とちられたらんなどこそ・かき  
たけならん人の・／とちられたらんなどこそ・かき

【一四紙】

- 1 りなくめつらしくはおほえめ・いかてはたか、りけりなくめつらし／くはおほえめ。いかて・はた・か、りけんと・おもふより・たかへる事なん・あやしく・心とまゐるわさなる・ち、のとしおい物むつかしけにふとりるわさなる。ち、／のとしおい・物むつかしけにふとりますき・せうとのかほにくけに・思やりことなることなき・すき・せうとの／かほにくけに・思やりことなる事なき・
- 2 ねやのうち／に・いといたう思あかり・はかなくしいてたねやのうち／に・いと・いたう・おもひあかり・はかなくしいてた
- 3 る事わさも・ゆへなからすけにとみえたらんなどは・る事／わさも・ゆへなからす・けにとみえたらんなどは・
- 4 いか、おもひのほかにをかしからさらむ・すくれていか、／おもひのほかにをかしからさらん、すくれて
- 5 きすなきかたのえらひにこそよはさらめさるきす／なきかたのえらひにこそよはさらめ・さる
- 6 かたにてすてかたき物をはとて・式部をみやれかたに／てすてかたき物をはとて・式部をみやれ
- 7 はわかいもうと、ものよろしき、こえあるを思て・は・わか・いも／うと、ものよろしき、こえあるを思て・

【一五紙】

- 1 の給とや心うらん・物もいはすいてや・かみのしなど思の給とや／心うらん・物もいはす。いてや・かみのしなどおもへるたに・かたけなるよなれはましてと・きみは心のうちにおほす・しろき御そのなよ、かなるに・なをしちに／おほす。しろき御そのなよ、かなるに・なをし
- 2 はかりをしとけなうきなしたまで・ひもなともうち
- 3 はかり／をしとけなう・きなしたまで・ひもなともうち／はかり／をしとけなう・きなしたまで・ひもなともうち／
- 4 すて、そひふし給へる御ほかけ・いとめてたう・女すて、そひふしたまへる御ほかけ・いとめてたう／女
- 5 みてみてまつらまほし・この御ためには・かみかにてみてまつらまほし、この御ためには・かみか／
- 6 かみをえりいて、も・なをあくましようみえたまかみをえりいて、も・なをあくましようみえたま
- 7 へり・このついでにさま／の人のうへともを・かたりへり、このついでにさま／の人のうへともを・かたり
- 8 あはせつ、おほかたのよにつけてみるには・とかなあ／はせつ、おほかたのよにつけてみるには・とかな
- 9 きも・わかものとうちたのむへきを・えらはむには・き／も・わかものとうちたのむへきを・えらはんには・
- 10

【一六紙】

- 1 おほかるなかにも・えなんおもひさたむまし  
おほ／かるなかにも・えなん・おもひさたむまし
- 2 かりける・をのこのおほやけにつかうまつり・  
かりける、を／のこのおほやけにつかうまつり・
- 3 はか／しきよのかためとなるへきも・まことのうつ  
はか／しき・よのかためとなるへきも・まことのうつ
- 4 は物をとりいてむには・かたかるへしかし・されと・  
は物をとりい／てむにはかたかるへしかし・されと・
- 5 かしこしとても・ひとりふたり・よの中を・まつり  
かしこしとて／も・ひとりふたり・よの中をまつり
- 6 こちしるわさならねは・／かみはしもにたすけら  
こちしるわさ／ならねは・かみは・しもにたすけら
- 7 れ・しもはかみになひきて・事ひろきにゆつ  
れ・しもはかみ／になひきて・事ひろきにゆつ
- 8 ろふらん・せはきいゑのうちのあしとすへき・人・  
ろふらん・せはき／いゑのうちのあしとすへき・人
- 9 ひとりを思めぐらすに・たらはてあしかるへき・大事  
ひとりを思めぐら／すに・たらはてあしかるへき・大事
- 10 ともなむ・かた／おほかりける・／とあれはか、りあ  
ともなむ・かた／おほかりける、／とあれはか、りあ

【一七紙】

- 1 ふさぎるさにて・なのめにさても・ありぬへき人  
ふさぎるさにて・な／のめにさても・ありぬへき人
- 2 のすくなきを・すき／しき心のすさひにて・人の  
のすくなきを・すき<sup>敬</sup>／しき・心のすさひにて・人の
- 3 ありさまをあまた・みあはせんこのみならねと・  
ありさまをあ／また・みあはせんこのみならねと・
- 4 ひとへに・おもひさたむへきよるへとすはかり・おなし  
ひとへに・おもひ／さたむへき・よるへとすはかり・おなし
- 5 うはわかちからいり・をしなをしひきつくろふ  
うはわかちから／いり・をしなをし・ひきつくろふ
- 6 へきどころなく・心になふやうもやと・えりそめつる  
へき・どころなく・心に／かなふやうもやと・えりそめつる
- 7 人のさたまりかたきなるへし・かならずしも・わか  
人のさたまり／かたき・なるへし・かならずしも・わか
- 8 おもふにかなはねと・みそめつるちきりはかりをす  
おもふにかな／はねと・みそめつるちきりはかりをす
- 9 てかたく・おもひとまる人は・物まめやかなりとみえ・  
てかたく・／おもひとまる人は・物まめやかなりとみえ・
- 10 たもたる、女のためも・心にく、をしはからる、なり・  
たも／たる、女のためも・心にく、をしはからる、なり・

【一八紙】

- 1 されとなにかよのありさまをみたまへあつむる  
されと・なにかよのありさまをみたまへあつむる／
- 2 まゝに・心におよはすといふしき事もなしや・  
まゝに・こゝろにをよはず・いと・いふかしき事もなしや
- 3 きむたちのかみなき・御えらひには・まし／ていかはか  
きむたちのかみなき・御えらひには・まし／ていかはか
- 4 りの人かはたくひたまはん・ところせくおもふたまへ  
りの人かはたくひたまはん・ところせく／おもふたまへ
- 5 ぬにたに・かたちきたなけなく・わかやかなるほど  
ぬにたに・かたちきたなけなく・わかや／かなるほど
- 6 の・をのかし、はちりもつかしと身をもてなし・  
の・をのかし、は・ちりもつかしと・身を／もてなし・
- 7 おもひて・ふみをかけと・おほとかにことえりをし・  
おもひて・ふみをかけと・おほとかにこと／えりをし・
- 8 すみつきほのかに心もとなくおもはせつ、又さ  
すみつきほのかに心もとなく・おもはせつ、又・さ
- 9 やかにもみてしかなど・すへなくまたせ・わつかな  
やかにも・みてしかなど・すへなく・またせ／わつかな
- 10 るこゑきくはかりいひよれと・いきのしたにひき  
る・こゑきくはかり・いひよれと・いきのしたに／ひき

【一九紙】

- 1 いれ・ことすくなゝるに・こゝろのうちは・いとよくも  
いれ・事すくなゝるに・こゝろのうちは・いと・よ／く・も
- 2 てかくすなりけり・なよひかに・女しとみれば・あ  
てかくすなりけり・なよひかに・女しとみれば／あ
- 3 まりなさげにひきたはめられて・とりなせは  
まりなさげにひきたはめられて・とりなせは／
- 4 あためく・これをはしめのなんとすへし・ことかな  
あためく・これをはしめのなんとすへし・ことかな
- 5 かに・なめなるましき人のうしろみのかたは・  
か／／に・なめなるましき人の・うしろみのかたは・
- 6 物のあはれしりすくし・はかなきついで二のな  
物のあはれしりすくし・はかなきついで二のな
- 7 さげあり・おかしきにすゝめるかたなくとも・よか  
さげあり・おかし／きにすゝめるかたなくとも・よか
- 8 るへしとみえたるに・又まめ／しきすちをたて、  
るへしとみえたるに・又・まめ／しきすちをたて、
- 9 み、はさみかちに・ひさうなきいゑとうしの・ひと  
み、はさみか／ちに・ひさうなきいゑとうしの・ひと
- 10 へにうちとけたるうしろみはかりをして・あさゆふ  
へにうちとけたる／る・うしろみはかりをして・あさゆふ

【二〇紙】

- 1 のいているふるまひにつけても・おほやけわたくし  
のいてるふるまひにつけても・おほやけわたくし
- 2 の人のたゝすまゐ・よきあしき事のめにもみ、  
の人のたゝすまゐ／ゐ・よきあしき事のめにも・み、
- 3 にもとまるありさまを・うとき人にわざとうち  
にもとまるありさまを・うとき人にわざとうち
- 4 まねひかたきも・みむ人のきゝ、わきおもひしる  
まねひかたきも・みむ／人のきゝゝわきおもひしる
- 5 へからむに・かたりもあはせはやと・うちかたゑまれ・  
へからんに・かたりもあはせ／はやと・うちかたゑまれ・
- 6 なみたまさしくまれ・もしはあやなきおほやけ  
なみたまさしくまれ・もし／はあやなき・おほやけ
- 7 はらたゝしく・心ひとつにおもひあまる事など  
はらたゝしく・心ひとつにおもひあまる事など・
- 8 おほかるを・なにゝかはきかせんとおもへは・うち  
おほかるを・なにゝかはきかせんと／おもへは・うち
- 9 そむかれて人しれぬ思いてわらひもせられ・あ  
そむかれて・人しれぬ思いてわらひも／せられ・あ
- 10 はれともうちひとりこつに・なに事そなど・いと  
はれともうちひとりこつに・なに事そなど・／いと・

【二一紙】

- 1 あはつかにさしあふきゐたらむは・いかゝはくちをし  
あはつかにさしあふきゐたらむは・いかゝはくち／をし
- 2 からさらん・たゝひたふるに・こめき・やはらかならん  
からさらん・たゝ・ひたふるに・こめき・やはらかならん
- 3 人をとかくひきつくるひては・なとかみさらん・心  
人を・とかく・ひきつくるひては・なとかみさらん・／こゝろ
- 4 もとなくとも・なをしとこある心ちすへきを・さし  
もとなくとも・なをしとこあるこゝちすへき／を・さし
- 5 むかひみむほどはさてもらうたきかたにつみゆる  
むかひみむほどは・さても・らうたきかたにつみ／ゆる
- 6 しつへし・たちはなれてさるへき事をもいひやり・  
しつへし・たちはなれてさるへき事をも・いひやり・
- 7 おりふしにしいてんわさのあたことにもまめ  
おりふしにしいてんわさのあたことにも／まめ
- 8 ことにも・我心とおもひうる事なく・ふかきいた  
ことにも・我・こゝろと・おもひうる事なく・ふかき／いた
- 9 りなからは・いとくちをししたのもしけなきとか  
りなからは・いとくちをししたのもしけなきとか
- 10 や・なをくるしからん・つねは・すこしそはくしく・心  
や・なをくるしからん・つねは・すこし・そはくしく／しく・こゝろ

【二三紙】

- 1 つきなき人の・おりふしにつけて・いてはえするや  
つきなき人の・おりふしにつけて・いてはえするや
- 2 うもあらかしなど・くまなき物いひも・おもひ  
うもあらかしなど・くまなき・物いひも・おもひ
- 3 さためかねていたう・ちなけく・いまはた、しな  
さためかねて・いたうちなけく・いまは・た、しな
- 4 にもよらし・かたちをはさらにもいはし・いとくち  
にもよらし・かたちをはさらにもいはし・いとくち
- 5 をしく・ねちけかましきおほえたになくは・た、  
をしく・ねちけかましきおほえたになくは・た、
- 6 ひとへに・物まめやかに・しつかなる心のおもむきなら  
ひとへに・物まめやかに・しつかなる心のおもむきなら
- 7 むよるへをそ・つるのたのみにころには・おもひ  
むよるへをそ・つるのたのみにころには・おもひ
- 8 おくへかりける・あまりのゆへ・よし・心はせうち  
おくへかりける・あまりのゆへ・よし・心はせうち
- 9 そへたらんをはよろこひに思・すこしをく  
そへたらんをはよろこひに思・すこしをく
- 10 れたるかたあらんをもあなちにもとめくは  
れたるかたあらんをも・あなちにもとめくは

\*尾州家本二行目「あらかしと」のミセケチは朱。

【二三紙】

- 1 へし・うしろやすくのとけきところたにつ  
へし・うしろやすくのとけき・ところたにつ
- 2 よくは・ことかたのうはへのなさけは・おのつから  
よくは・ことかたのうはへのなさけは・おのつから
- 3 もてつけつへきわさをや・えんに物はちして・う  
もてつけつへきわさをや・えんに物はちして・う
- 4 らみいふへき事をも・みき、しらぬさまに・おもひ  
らみいふへき事をも・みき、しらぬさまに・おもひ
- 5 しのひへてうへはつれなくみさをつくりて・心ひとつに  
しのひへてうへはつれなく・みさをつくりて・心ひとつに
- 6 おもひあまるときは・いはんかたなくて・すこきこと  
おもひあまるときは・いはんかたなくて・すこきこと
- 7 のは・あはれなるうたよみおき・しのはるへきかたみと、  
のは・あはれなる・うたよみをき・しのはるへきかたをみと、
- 8 めて・ふかきやまさと・よはな一れたるうみつらなどに・  
めて・ふかきやまさと・よはな一れたるうみつらなどに・
- 9 はひかくれぬかし・わらはに侍しとき・女房などの  
はひかくれぬかし・わらはに侍しとき・女房などの
- 10 ものかたりよみしをき、侍しに・いとあはれにかなし  
ものかたり・よみしをき、侍しに・いと・あはれにかなし

\*学習院本五行目「心ひとつに」の「に」は補入か。



【二四紙】

- 1 かへいことかなとなみたをさへなむおとし侍し・いま  
かへいことかなと・なみたをさへなむおとし侍し。／いま・
- 2 おもふには・いとかるくしく・ことさらひたる事なり・  
おもふには・いと・かるくしく・ことさらひたる事なり。／
- 3 心さしふか、らんおとこそ、きて・みるめのまへにつら  
こ、ろさしふか、らんおとこそをきて・みるめの／まへにつら
- 4 き事ありとも・人・の心をもみしらぬやうに・にけ  
き事ありとも・人のこ、ろをもみしらぬ／や・うに・にけ
- 5 かくれて・人をまとはし・こ、ろをもみむとするほどに・  
かくれて・人をまとはし・こ、ろをもみん／とするほどに・
- 6 なかきよのものおもひになる・いとあちきなきこと  
なかきよの物おもひになる・いとあち／きなき事
- 7 なり・心ふかしやなどほめたてられて・あはれす、  
なり、心ふかしやなどほめたてられて・／あはれす、
- 8 みぬれは・やかてあまになりぬかし・おもひたつほと  
みぬれは・やかてあまになりぬかし、おもひたつほと
- 9 は・いとたけく心すめるやうにてよにかへりみすへ  
は・いとたけく・こ、ろすめるやうに／て・よにかへりみすへ
- 10 くも・おもへらす・いてあなかなし・かく・はたおほし  
くも・おもへらす、いて・あなかなし、／／かく・はた・おほし

【二五紙】

- 1 なりにけるよなどやうに・あひしれる人きとふら  
なりにけるよなどやうに・あひし／れる人きとふら
- 2 ひ・ひたすらにうしともおもひはなれぬおとこき、  
ひ・ひたすらにうしともおもひは／なれぬおとこき、
- 3 つけて・なみたおとせは・つかふ人・ふる・こたちなど・なを・  
つけて・なみたおとせは・つかふ人、／ふるこたち・など・なを・
- 4 きみの御心さしはふか、りけるものを・あたらしき  
きみの御こ、ろさしはふか、り／ける物を・あたらしき
- 5 御身なりやなどいふ・みつからも・ひたひかみをかき  
御身なりやなどいふ、みつから／も・ひたひかみをかき
- 6 さくりて・あへなきにうちひそみぬ・しのふれと・なみた  
さくりて・あへなきにうちひそ／みぬ、しのふれと・なみた
- 7 こほれそめぬれは・おりく／ことに・ねんしえす・くや  
こほれそめぬれは・おりく／ことに・ねむしえす、くや
- 8 しき事もおほかむめるに・ほとけも・中く／心きた  
しき事もおほかむめるに、／ほとけも・中く／こ、ろきた
- 9 なしとみ給らん・にこりにしめるほとよりも・なまう  
なしとみ給らん、にこりに／しめるほとよりも・なまう
- 10 かひにては・かへりてあしきみちにも・た、よひぬへく  
かひにては・かへりてあし／きみちにも・た、よひぬへく

【二六紙】

- 1 ぞおほゆる・なをたえぬすくせあさからて・あまに  
ぞおほゆる。なを・たえ／ぬすくせあさからて・あまに
- 2 もなさてたつねとられても・そのおもひいて・うら  
もなさてたつねとら／れても・そのおもひいて・うら
- 3 めしきふし・あらさらんや・あしくもよくもあひ  
めし・きふし・あらさらん／や。あしくもよくもあひ
- 4 そひて・とあらむおりも・か、らんきさみをも・み  
そひて・とあらむおりも・か、／らんきさみをも・み
- 5 すくしたらん・なかのみこそ・ちきりたえずあ  
すくしたらん・なかのみこそ・／ちきりたえず・あ
- 6 はれならめ・われも・人も・うしろめたく・心をかれ  
はれならめ。われも・人も・うしろ／めたく・こゝろをかれ
- 7 しゃは・又なのめにおもひうつろ／ふかたあらん  
しゃは。又・なのめにおもひうつろ／ふかたあらん
- 8 人をうらみて・けしきはみ・そむかん・はた・おこ  
人をうらみて・けしきはみ・そむかん・／はた・おこ
- 9 かましかりなん・心はうつろふかたありとも・  
かましかりなん。こゝろはうつろふかたありとも・
- 10 みぞめし心ざしいとおしくもあへからん人も・  
みぞめしこゝろざし・いとをしくもあへからん／人も・

【二七紙】

- 1 さてそのたちろきに・たえぬへきわさなり・すへ・  
さて・そのたちろきに・たえぬへきわさなり。／すへ
- 2 てよろつの事・なたらかに・ゑんすへき事をはみ  
て・よろつの事・なたらかに・ゑんすへき事をは／み
- 3 しれるさまにほのめかし・うらむへからんふしを  
しれるさまにほのめかし。うらむへからんふし／を
- 4 も・にくからすかすめなさは・それにつけて・あはれも  
も・にくからす・かすめなさは・それにつけて・／あはれも・
- 5 まさりぬへし・おほくは・わかこゝろも・みる人からおさ  
まさりぬへし。おほくは・わかこゝろも・みる人／からおさ
- 6 まりもすへし・あまりむけに・うちゆるへ・心やすく・  
まりもすへし。あまり・むけに・うちゆるへ・心／やすく・
- 7 おほとかに・みはなつは・らうたきやうなれと・おの  
おほとかに・みはなつは・らうたきやうなれと・／おの
- 8 つからかるき・かたにそ・おほえ侍かしつなかぬふ  
つ・から・かるきかたにそ・おほえ侍かし。／つなかぬ／ふ
- 9 ねの・うきたるためしも・けにあやなし・さは侍ら  
ねの・うきたるためしも・けにあやなし。さ／は侍ら
- 10 ぬかといへは・中将うなつく・さしあたりておかしと  
ぬかといへは・中将うなつく。さしあたりて・おかし／と

【二八紙】

- 1 もあはれとも心にいらん人の・たのもしけなき  
もあはれともこゝろにいらむ人の・たのもしけ／なき
- 2 うたかひあらむこそ・大事なるへけれ・我心の  
うたかひあらむこそ・大事なるへけれ我心の／
- 3 あやまちなくて・みすくさは・さしなをしても・な  
あやまちなくて・みすくさは・さしなをしても・／な
- 4 とかみさらんと・おほえたれと・それさしもえある  
とかみさらんと・おほえたれと・それさしもえある／
- 5 まし・ともかくも・たかふへきふしあらむを・のとかに・  
まし・ともかくも・たかふへきふしあらむを・のとかに・／
- 6 みしのはんよりほかに・ます事あるましかりけり  
みしのはんよりほかに・ます事あるましかりけり／
- 7 といひて・わかいもうとのひめきみは・このさために  
といひて・わか・いもうとのひめきみは・このさために／
- 8 かなひたまへりとおもへは・きみのうちねふりて・  
かなひたまへりとおもへは・きみのうちねふりて・
- 9 ことはませたまはぬを・さう／しく／しく心やましと  
こと／は・ませたまはぬを・さう／しく／しく心やましと／
- 10 おもふ・むまのかみものさためのはかせになりて・  
おもふ・むまのかみ物さためのはかせになりて・

【二九紙】

- 1 ひゝちゐたり・中将はこのことはり・きゝはてむと・  
ひゝち／あたり・中将はこの事はり・きゝはてんど・
- 2 心にいれてあへしらひぬたまへり・よろつの事  
こゝろにい／れてあへしらひぬたまへりよろつの事
- 3 にそへておほせ・木のみちのたくみの・よろつの・  
によそ／へておほせ・木のみちのたくみの・よろつの
- 4 物を心にまかせてつくりいたすもりうしのもて  
物を・こゝろに／まかせてつくりいたすもりうしのもて
- 5 あそひもの、そのものとあともさたまらぬはそ  
あそひ物／／の・その物とあともさたまらぬは・そ
- 6 はつき・されはみ・たり・なにくれのこはこやうのもの  
はつき・されはみ／たり・なにくれのこはこやうのもの
- 7 はさまをかへつゝ、しいてたるもけにかうもしつへか  
は・さまをかへつゝ、しいてたるも・けにかうもしつへか
- 8 りけりと時につけて・いまめかしきにめうつりて  
りけりと・時に／つけていまめかしきに・めうつりて
- 9 おかしきもあり・大事として・まことにうるはしき人  
おかしきも／あり・大事として・まことにうるはしき人
- 10 のてう／のかさりとする・さたまれるやうある物を・な  
のてう／／のかさりとする・さたまれるやうある物を・な

【三〇紙】

- 1 むなく・しいつる事なん・なをまことの物の上手は  
、く、／しいつる事なん・なをまことの物の上手は・
- 2 さまことにみえわかれ侍・又ゑとところに・上手おほかれ  
さま／ことにみえわかれ侍・又・ゑとところに・上手おほかれ
- 3 と・すみかきに・えらはれて・つきつきさらに・おとり  
と・／すみかきに・えらはれて・つきつきさらに・おとり
- 4 まさるけちめ・ふとしもみえわかれす・か、れと人の・  
ま／さるけちめ・ふとしもみえわかれす・か、れと人の・
- 5 みおよはぬ・ほうらいのやま・あらうみのいかれるい  
み／をよはぬ・ほうらいのやま・あらうみのいかれるい
- 6 をのすかた・からくにはけしきけたもの、かた  
をの／すかた・からくにはけしきけたもの、かた
- 7 ち・めにみえぬおにのかほなどのおとろくしく・つ  
ち・めに／みえぬ・おにのかほ・などのおとろくしく・つ
- 8 くりたる物は・心にまかせて・ひとへに人のめを・お  
くりたる／物は・こ、ろにまかせて・ひとへに人のめを
- 9 とろかし・まことには・にさらめと・さてありぬへし・よの  
とろか／し・まことには・にさらめと・さてありぬへし・世の
- 10 つねの山のた、すまひ・みつのなかれ・めにちかき  
つね／の山のた、すまひ・みつのなかれ・めにちかき

【三一紙】

- 1 人のいゑる・ありさま・などをけにとみえて・なつ  
人の／いゑる・ありさま・などを・けにとみえて・なつ
- 2 かしう・やはらけて・しつかに・かきませて・すくよかな  
かしう／やはらけて・しつかに・かきませて・すくよかな
- 3 らぬ山のけしき・こふかく・世はなれてた、みなし・け  
らぬ・山のけしき・こふかく・世はなれてた、みなし・け
- 4 ちかきまかきのうちをは・その心しらひ・おきてなど  
ちかきまかきのうちをは・そのこ、ろしらひ・をきて「など」／
- 5 をなん・上手はいといきほひことに・わる物は・およはぬ  
をなん・上手はいといきほひことに・わる物は・をよはぬ／
- 6 ところおほかめる・てをかき・たるにも・ふかきことは  
ところおほかめる・てをかきたるにも・ふかきことは
- 7 なくて・こ、かしこのてんなかにはしりひき・そこは  
なく／て・こ、かしこのてむなかにはしりひき・そこは
- 8 かとなくけしきはめるは・うちみるに・かとくしく・き  
かと／なくけしきはめるは・うちみるに・かとくしく／き
- 9 よけなれと・なをまことの・すちを・こまやかにかきえ  
よけなれと・なを・まことのすちを・こまやかにか／きえ
- 10 たるは・うはへのふてかさらぬは・きえてまつはみゆれと・  
たるは・うはへのふてかさらぬは・きえてまつは／みゆれと・

【三三紙】

- 1 いまひとたひ・とりならへてみれば・なをしちになん  
いまひとたひ・とりならへてみれば・なをしちになむ
- 2 よりける・はかなき事たに・かくこそ侍れ・まして・人  
よりける・はかなき事たに・かくこそ侍れ・まして・人
- 3 の心の・ときにあたりて・けしきはめらむ・みるめの  
のこゝろの・ときにあたりて・けしきはめ／らん・みるめの
- 4 なさけをは・えたのむましくおもふ給へ侍・その  
なさけをは・えたのむましくおもふ給／へ侍・その
- 5 はしめの事・すき／しくともきこえ侍らむとて・  
はしめの事・すき／しくともきこえ侍らん／とて・
- 6 ちかくるよれば・きみもめさまし給・中将はたいみし  
ちかくるよれば・きみもめさまし給・中将はへたいみし／
- 7 う・けうして・つらつえつきて・むかひるたりの  
う・けうして・つらつえつきて・むかひるたり・の
- 8 りのしのよのことはり・とき、かせんところの心  
り／／のしのよのことはり・とき、かせん・ところの心
- 9 ちするも・かつは・おかしけれと・かゝるついでには・  
地するも・かつは・おかしけれと・かゝるついでには・
- 10 おのかし、のむつ事も・えしのひと、めす・なんあ  
をのかし、のむつ事も・えしのひと、めす・なんあ

【三三紙】

- 1 りける・はやうまた・けらうに・侍し時・いとあはれとお  
りける・はやう／また・けらうに・侍し時・いと・あはれとお
- 2 もふ人侍き・き／こえつるやうに・かたちなといとま  
もふ人侍き・き／こえつるやうに・かたちなといとま
- 3 ほにも侍らさりしかは・わかきほどのすさひこゝろに・  
ほにも侍らさり／しかは・わかきほどのすさひこゝろに・
- 4 ひとりにも・おもひとめ侍らす・これをよるへと  
ひとりにも・おもひとめ侍らす・これをよるへと
- 5 は思ながら・さう／しくて・とかくまきれありき  
はおもひながら・さう／しくて・とかくまきれありき
- 6 侍しを・物<sup>ぬ</sup>しをいたくし侍しかは・心つきなく・  
侍しを・物／ぬしをいたくし侍しかは・こゝろつきなく・
- 7 いとかゝらて・おいらかならましかはと思つ、・あまり  
いと・かゝらて・おいらかならましかはと思つ、・あまり／
- 8 いとゆるしなく・うたかひ侍しも・うるさくて・かく  
いとゆるしなく・うたかひ侍しも・うるさくて・かく
- 9 かすならぬ身を・みもはなたす・なとかくしも思  
か／すならぬ身を・みもはなたす・なとかくしも思
- 10 らんと・心くるしきおり／も侍て・しねんに・こころ  
覽／と・こゝろくるしきおり／も侍て・しねんに・心

【三四紙】

- 1 おさめらるゝやうになん侍し・この女のあるやう・  
おさ／めらるゝやうになん侍し・この女のあるやう・
- 2 もとより思いたらさりける事にも・いかてこの人の  
もとより・おもひいたらさりける事にも・いかてこの人の
- 3 ためにいと・なきてをいたし・をくれたるすちの心  
ため／に・いと・なきてをいたし・をくれたるすちのこゝろ
- 4 をも・なをくちをしくはみえしと・思はけみつゝ・と  
を／も・なを・くちをしくはみえしと・おもひはけみつゝ・／と
- 5 にかくにつけて・物まめやかに・うしろみ・つゆに  
にかくにつけて・物まめやかに・うしろみ・つゆ／に
- 6 ても・心にたかふ事はなくもかなと思へりし  
ても・こゝろにたかふ・事はなくもかなと思へりし／
- 7 ほとに・すゝめるかたの人と・思給しかと・かくに  
ほとに・すくめるかたの人と・思給しかと・／とかくに
- 8 なひきて・なよひゆき・みにくきかたちをも・こ  
な／ひきて・なよひゆき・みにくきかたちをも・こ
- 9 の人に〈みやうとまれんとわりなく思つくりうとき人に〉・  
みえは・おもてふせにや思はんと・は、かりは  
の人に・／みやうとまれんと・わりなく・おもひつくりうと／
- 10 ちて・みさをにもてつけて・みなるゝまゝに・心も  
ちて・みさをにもてつけて・みなるゝまゝに・こゝろも

第二軸

【一紙】

- 1 けしうはあらず侍しかと・たゝこのにくきかた・ひ  
け／し・うゝはあらず侍しかと・たゝこのにくきかた・ひ
- 2 とつなん・心おさめかたう侍し・そのかみ思侍しや  
とつなん・／こゝろおさめかたう侍し・そのかみ・思侍しや
- 3 う・われには・かう・あなかちに・したかひ・をちたる人  
う・われ／には・かう・あなかちに・したかひ・をちたる人
- 4 なめり・いかて・こるはかりのわさして・をとして・この  
なめり・いかて・こるはかりのわさして・をとして・この
- 5 かたも・すこしよろしくもなり・さかなさもやめ  
かたも・すこしよろしくもなり・さかなさもや／め
- 6 むと・思て・まことにうしなといひて・たえぬへきけ  
むと・思て・まことに・うしなといひて・たえぬへきけ／
- 7 しきならば・かはかりわれに・したかふ心ならば・思こり  
しきならば・かはかりわれに・したかふ心ならば・思こり
- 8 なむと思給へて・ことさらに・なさけなく・つれなき  
なんと思給へて・ことさらに・なさけ／なく・つれなき
- 9 さまをみせて・れいのはらたちゑんするに・かくをぞ  
さまをみせて・れいのはらたちゑん／するに・かくをぞ
- 10 ましくは・いみしきちきりふかくとも・たえて又  
ましくは・いみしきちきりふかく／とも・たえて又

【二紙】

- 1 みし・かきりとおもは、・かくわりなき物うたかひ  
みし・かきりとおもは、・かくわりなき／ものうたかひ
- 2 はせよ・ゆくさき・な（か）くみえんとおもは、・うき事  
はせよ・ゆくさきなくみえんとおも／は、・うき事
- 3 ありとも・なのめに・おもひならへか、る心たにう  
ありとも・なのめにおもひならへ・か、る／こ、ろたにう
- 4 せなは・いとあはれとなんおもふへき・人なみくにも  
せなは・いとあはれとなんおもふへき・人／なみくにも
- 5 なり・すしおとなひんにそへても・又ならふ  
なり・すしおとなひんにそへて（も）・又・／ならふ
- 6 人なくあるへきやうなどかしこく・しえたくる  
人なくあるへきやうなど・かしこくしえたくる
- 7 かなと・思給へてわれたけく・いひそし侍に・この  
かなと思給へて・われたけく・いひそし侍に・この／
- 8 女すこしうちわらひて・よろつにみたてなく  
女すこしうちわらひて・よろつにみたてなく
- 9 物けなきほどを・みすくして・人かすなるよもや  
物／けなきほどを・みすくして・人かすなる世もや
- 10 と・まつかたはいとのとかに思なされて・心やましく  
と・まつかたはいとのとかにおもひなされて・心やまし／く

【三紙】

- 1 もあらず・つらきこ、ろをしのひて・思なをらん  
もあらず、つらきこ、ろをしのひて・思なをらん
- 2 おりをみつげむと・とし月をかさねんあいな  
おりをみつげんと・とし月をかさねんあいな・
- 3 たのみは・いとくるしくなむあるへければ・かたみにそ  
たのみ／は・いとくるしくなんあるへければ・かたみにそ
- 4 むきぬへき、・さみに・なんあると・ねたけにいふに・はら  
むきぬ／へき、・さみに・なんあると・ねたけにいふに・はら
- 5 た、しくなりて・にくけなる事ともを・いひはけま  
た、しくなりて・にくけなる事ともを・いひはけま
- 6 し侍に・女もれいのおおさめぬすちにて・およひ、  
し／侍に・女もれいのおおさめぬすちにて・およひ、
- 7 とつをひきよせて・くひて侍しを・おとろくしくか  
とつ／をひきよせて・くひて侍しを・おとろくしくか
- 8 こちて・か、るきすさへつきぬれは・いよ／ましらひ  
こちて・か、るきすさへつきぬれは・いよ／ましらひ
- 9 すへき・にもあらず・はつかしめ給める・つかさ・くらゐ・  
すへき／にもあらず、はつかしめたまふめる・つかさ・くらゐ・／
- 10 いと、しくなな、つけてかは・人めかむ・よをそむき  
いと、しく・なな、つけてかは・人めかむ、よをそむき／

【四紙】

- 1 ぬへき身なめりなといひおとして・さらは・けふこ  
ぬへき・身なまなめりなと・いひおとして・さらはけふこ
- 2 そはかきりなめれと・このおよひをか、めてまかてぬ  
そはか／＼きりなめれと・このおよひをか、めてまかてぬ／
- 3 てを、りてあひみしのちをかそふるにこれ  
てをおりてあひみしのちをかそふるに／これ
- 4 ひとつやはきみかうきふしえうらみしなといひ  
ひとつやはきみかうきふし、えうらみしな／といひ
- 5 侍れは・さすかにうちなきて  
侍れは・さすかにうちなきて／
- 6 うきふしを心ひとつにかそへきてこやき  
うきふしをこゝろひとつにかそへきてこ／こやき
- 7 みかてをわかるへきをり・なといひしろひ侍しかと・  
みかてをわかるへきおりなと・いひしろひ侍／しかと・
- 8 まことには・かはるへき事とも・思給へすなから・ひこ  
まことには・かはるへき事とも・思給へすなから／ら・ひこ
- 9 ろふるまで・せうそこなども・しはへらて・あくかれ  
ろふるまで・せうそこなども・しはへら／て・あくかれ
- 10 まかりありくに・りんしのまつりのてうかくに・よ  
まかりありくに・りんしのまつりの／てうかくに・夜

【五紙】

- 1 ふけて・いみしう・みそれふるに・これかれまかりあか  
ふけて・いみしう・みそれふるよ・これ／かれ・まかりあか
- 2 る、ところにて・思めくらせは・なをいへちと思はんかたは・  
る、ところにて・おもひめくらせは・なを・／いへちとおもはんか  
たは・／
- 3 又なかりけり・うちわたりのたひねもすさましか  
又・なかりけり、うちわたりのた／ひねもすさましか
- 4 るへく・けしきはみうちそはむくあたりも・そ、  
るへく・けしきはみうちそは／むく・あたりも・そ、
- 5 ろさむくやと・思給へられしかは・いか、おもへると・けしき  
ろさむくやと・思給へられしかは・／いか、おもへると・けしき
- 6 もみかてら・ゆきをうちはらひつ、まかて、なま  
もみかてら・ゆきをうちはら／ひつ、まかて、なま
- 7 わろく・つめくはるれと・さりとも・こよひ・ひころのう  
わろく・つめくはるれと・／さりとも・こよひ・ひころのう
- 8 らみはとけむとおもふ給へしに・火ほのかにかへに  
らみはとけなむとおもふ／たまへしに・火ほのかにかへに
- 9 そむけ・なえたるきぬのあつこえたるとも・あた  
そむけ・なえたる／きぬのあつこえたるとも・あた
- 10 たかなるへく・おほきなるこにふすへかけて・ひき  
たかなるへく・おほき／なるこにふすへかけて・ひき



【六紙】

- 1 あくへき物のかたひらなど・うちあけて・こよひは  
あくへき物のかたひら／など・うちあけて・こよひは
- 2 かりやなど・まちけるさまなり・されはよと・心をこり  
かりやなど・まちけるさ／まなり・されはよと・こ、ろをこり
- 3 するに・さうし／みはなし・さるへき女房などはかり  
するに・さうし／みはなし・さるへき女房などはかり
- 4 とまりて・おやのいへに・こ・のよさりなんわたりぬると  
とまりて・おや／のいへに・こ・のよさりなんわたりぬると
- 5 こたへ侍り・えんなるうたなども・よみをかす・けしき  
こたへはへり・えんなる・うたなども・よみをかす・けしき
- 6 はめるせうそこもなくて・いとひたやこもりに・  
はめるせうそこ（も）なくて・いと・ひたやこもりに・
- 7 おほつかなければ・あえなき心ちして・さかなく・ゆる  
おほつか／ければ・あえなきこ、ちして・さかなく・ゆる
- 8 しなかりしも・われをうとみねと・おもふかたの心にや  
しな／りしも・われをうとみねと・おもふかたのこ、ろにや
- 9 ありけむなど・さしもみたまへさりし事なれと・心  
ありけん（な）と・さしもみたまへさりし事なれと・心
- 10 やましきまゝに・思侍しに・きるへき物つねよりも・  
やましきまゝに・思侍しに・きるへき物つねよりも・

\*尾州家本六行目補入記号は朱。

【七紙】

- 1 こ、ろと、めたるいろあひしさま・いとあらまほし  
こ、ろと、めたるいろあひしさま・いと・あらまほし
- 2 くて・さすかに・わかみすて、んのちをさへなん・思や  
くて・さすかに・わかみすて、んのちをさへなん・思／や
- 3 りうしろみたりし・さりとまたえておもひはな／つやうは・  
りうしろみたりし・さりとまたえておもひはな／つやうは・
- 4 あらしと思給て・とかくいひ侍しを・そむきもせず・かく  
あらしと思給て・とかくいひ侍しを・そむき／もせず・かく
- 5 れしのひか、やかしからす・いらへつ、た、ありし  
れのひか、やかしからす・いらへつ、た、／ありし
- 6 心なからは・えなんみすくすまじき・あらためて・のとかに  
心なからは・えなん・みすくすまじき・あらた／めて・のとかに
- 7 みえぬへく思ならはなむ・あひみるへきなどいひしを・  
みえぬへく思ならはなん・あひみるへき／などいひしを・
- 8 さりとも・え思はなれしと・思給へしかは・しはしこらさ  
さりとも・え思はなれしと・思給へし／かは・しはし・こらさ
- 9 むのこ、ろにて・しかあらためんともいはず・いたくつ  
むのこ、ろにて・しかあらため／むともいはず・いたく／つ
- 10 なひきてみせしあひたに・いといたく思な・けきて・  
なひきてみせしあひたに・／いと・いたく・思なけきて・

【八紙】

- 1 そこはかとなく・わつらひてなくなり侍にしかは・たそこはかとなく・わつらひ／てなくなり侍にしかは・た
- 2 はふれにく、なん・おほえ侍し・ひとへにうちたのみはふれにく、なん・おほえ侍し・ひとへに・うちたのみ
- 3 たらんかたは・さはかりにてありぬへくなん・思給いたらんかたは・さはかりにてありぬへくなん・思給い
- 4 てるる、・はかなきあたことをも・まことの大事をも・てるる、・はかなきあた事／／をも・まことの大事をも・
- 5 いひあはせたらむにかひなくはあらすたつたいひあはせたらんにか／ひなく（は）あらす。たつた
- 6 ひめといはむにも・つきなからす・たなはたのてにもおひめといはむにも・つきなからす・たなはたのてにもお
- 7 とるましく・そのかたをもと、して・うるさくなん侍とるましく・そのかたを・／もと、して・うるさくなん侍
- 8 してて・いとあはれと思いてたるけしきなり・中将してて・いと・あはれと／おもひいてたるけしきなり。中将
- 9 そのたなはたのたちぬふかたをとめて・なかきそのたなはたの／／たちぬふかたをとめて・なかき
- 10 ちきりにぞあえまし・けに・そのたつたひめののちきりにぞあ／えまし。けにそのたつたひめのの

【九紙】

- 1 しきには・又しく物あらし・はかなきはなもみちとしきには・又・／しく物あらし。はかなきはなもみちと
- 2 いふとも・なを、りふしのいろあひ・つきなく・はかくいふとも・／なを・おりふしのいろあひ・つきなく・はかく
- 3 しからぬもてなしには・つゆのはえなく・きえぬるわさしか／らぬもてなし（へ）は・つゆのはえなく・きえぬるわさ
- 4 なり・さるに・よりかたきよそとは・さためかねたるそやなり・さるに・よりかたきよそとは・さためかねたる／／そや
- 5 と・いひはやしたまふ・さて又おなじころ・まかりかよひと・いひはやしたまふ。さて・又・おなじころ・ま／かりかよひ
- 6 ところは・人もたちまさり心はせまことにゆへところは・人もたちまさり・ころはせ／まことにゆへ
- 7 ありとみえぬへく・うちよみはしりかき・かいひくつありとみえぬへく・うちよみ・はしりか／き・かいひく・つ
- 8 まおと・おほめかしからす・みるめもこともなくなとまをと・おほめかしからす・みるめも／こともなくなと
- 9 ありしかは・このさかなものを・うちとけたるかたにありしかは・このさかな物を・うち／とけたるかたに
- 10 て・とき／かくろへ・み侍しほとはいとこよなく心とまりて・とき／かくろへ・み侍しほとは（いと・）こよ／なくこ、ろと

まり

【一〇紙】

- 1 侍き・かの人うせてのち・いか、はせん・あはれな  
侍き、かの人うせてのち・いか、はせん、／あはれな
- 2 かも・すきぬるは・かひなくて・しはく／まかりなる、  
かも・すきぬるは・かひなくて・しはく／まかりなる、
- 3 ま、に・はたすこしまは・ゆく・えんにこのましきこ  
ま、に・はたすこしまはゆく・えんに／このましきこ
- 4 とみえめにつかぬところあるに・えう／ちたのむま  
とみえ・めにつかぬ・ところあるに・えう／ちたのむま
- 5 しくおほえ侍でかれく／にのみ・みせ／侍しほとに・しの  
しくおほえ侍で・かれく／にのみ・みせ／侍しほとに・しの
- 6 ひて・心かはせる人そありけらし・神無月の  
ひて・心かはせる人そありけらし・神無月の
- 7 ころほひ・月おもしろかりし夜・うちよりまかて  
ころほひ・月おもしろかりし夜・うちより・まかて
- 8 侍に・あるうへ人きあひて・このくるまにのり  
侍に・あるうへ人・きあひて・このく／るまにのり
- 9 ていつれは・大納言のいへにまかりとまらんとするに・  
ていつれは・大納言のいへにまかりとまら／むとするに・
- 10 この人・いふやう・こよひ人まつらむ・やとなむ・あ  
この人のいふやう・こよひ人まつらん・や／となん・あ

【一一紙】

- 1 やしく・心くるしきとて・この女のいへ・はた・よきぬみち  
やしく・こ、ろくるしきへとて・この女のいへ・はた、／よきぬみ  
ち
- 2 なりければ・あれたるくつれより・いけのみつかけ  
なりければ・あれたるくつれより・いけの／みつかけ
- 3 みえて月たにやとるすみかをすきんも・さすかにて・  
みえて、／月たにやとるすみかをすきん／も・さすかにて・
- 4 おり侍ぬかし・もとよりさるこ、ろ／をかはせるにやあり  
おり侍ぬかし・もとよりさるこ、ろ／をかはせるにやあり
- 5 けむ・このおとこいたくす、ろきて・かとちかきらう  
けむ・このおとこ・いたくす、ろ／きて・かとちかきらう
- 6 のすのこたつ物にしりかけて・とはかり月をみる・  
のすのこたつ物にしりかけ／て・とはかり月をみる、
- 7 きくいとおもしろく・うつろひ・わたりて・風にき  
きくいとおもしろく・うつろひ／わたりて・風にき
- 8 ほへるもみちのみたれなと・けに・あはれとみえたり・ふと  
ほへるもみちのみたれなと・けに／あはれとみえたり、ふと
- 9 ころなりつるふえとりいて、ふきならしかけも  
ころなりつるふえとりいて、／ふきならし／かけも
- 10 よしなと・つ、しりうたふほとに・よくなるわこん  
よしなと・つ、しりうたふほと／に・よくなるわこん

【一二紙】

- 1 をしらへと、のへたりけるを・うるはしくかき  
をしらへと、のへたりける〈を〉・うる／はしくかき
- 2 あはせたりしほど・けしうはあらずかし・り  
あはせたりしほど・けしうはあらず／かし<sup>#</sup>り
- 3 ちのしらへは・はた・女のものやはらかに・かきならし  
ちのしらへ・はた・女のものやはらかに・かきならし
- 4 て・すのうちよりきこえたるも・いまめきたる物の  
て・すのうちよりきこえたるも・いまめきたる／物の
- 5 こゑなれば・きよくすめる月に・おりつきなからす・  
こゑなれば・きよくすめる月に・おりつきな／からす<sup>・</sup>
- 6 をとこいたうめて・すのもとにあゆみきて・には  
おとこ・いたく・めて・すのもとにあゆみきて・／には
- 7 のもみちこそ・ふみわけたるあともなけれなど・ね  
のもみちこそ・ふみわけたるあともなけれ／など・ね
- 8 たますきくを、りて  
たます<sup>・</sup>きくをおりて
- 9 ことのねもきくもえならぬやとなからつれ  
ことのねもきくもえならぬやとなから／つれ
- 10 なき人・をひきやとめける・わろかむめりなど  
なき人をひきやとめける・わろかむめりなど／

【二三紙】

- 1 いひて・いまひとこゑ・き、はやすへき人のあるときに  
いひて・いまひとこゑ・き、やはすへき人のあるときに／
- 2 手なのこいたまひそなど・いたくあされかくれば・  
手なの・こいたまひそなど・いたくあされかくれば・／
- 3 女こゑいたうつくるひて  
女こゑいたうつくるひて／
- 4 こからしにふきあはすめるふえのねをひき  
こからしにふきあはすめるふえのねを／ひき
- 5 と、むへきことのはもなし・などなまめきかはすに・  
と、むへきことのはもなしなど・なまめきかは／すに<sup>・</sup>
- 6 にく、なるをもしろて又さうのことはむしき  
にく、なるをもしろて・又・さうのことはむしき<sup>和歌調</sup>
- 7 てうにしらへていまめかしく・かいひきたるつま  
てうにしらへて・いまめかしく・かいひきたる／つま
- 8 おと・かとなきにはあらねと・まはゆきこ、ち／なんし  
おと・かとなきにはあらねと・まはゆきこ、ち／なんし
- 9 侍し・た、ときく・うちかたらふ宮つかへ人などの・  
侍し、た、ときく・うちかたらふみやつかへ／人などの<sup>・</sup>
- 10 あくまでされはみ・すきたるは・さてもみるかきりは  
あくまでされはみ・すきたるは<sup>歌</sup>・さてもみるかきりは

【一四紙】

- 1 おかしくも・ありぬへし・とき／＼にても・さるところ  
おかしくも・ありぬへし・とき／＼にても・さるところ
- 2 にて・わすれぬやすかと・おもふたまへしを・たのもし  
にて・わすれぬやすかと・おもふたまへしを・たのもし
- 3 けなく・さしすくいたりと・心をかれて・そのよの事に・  
けなく・さしすくいたりと・心をかれて・そのよの事に・
- 4 ことつけてこそ・まかりたえにしか・このふたつの  
ことつけてこそ・まかりたえにしか・このふたつの
- 5 事をおもふたまへあはするに・わかき時の心にと  
事をおもふたまへあはするに・わかき時の心にと
- 6 に・なをさやうに・もていてたる事は・いとあやうく・  
に・なをさやうに・もていてたる事は・いとあやうく・
- 7 たのもしけなく・おほえ侍き・いまよりのちは・まして・  
たのもしけなく・おほえ侍き・いまよりのちは・まして・
- 8 さのみなん思給へらるへき・御心のまゝに・おらは  
さのみなん思給へらるへき・御心のまゝに・おらは
- 9 おちぬへきはきのつゆひろは・きえなんとする  
おちぬへきはきのつゆひろは・きえなんとする
- 10 たまさゝのうへのあられなとやうの・えんにあえ  
たま／さゝのうへのあられなとやうの・えんにあえ

【一五紙】

- 1 かなる・すき／＼しさのみこそ・おかしくおほさるら  
かなる・すき／＼しさのみこそ・おかしく・おほさるら
- 2 め・いまざりとも・なゝとせあまりのほどに・おほし  
め・いまざりとも・なゝとせあまりのほどに・おほし
- 3 しり侍なん・なにかしか・いやしきいさめにて・す  
しり侍なん・なにかしか・いやしきいさめにて・す
- 4 きたはめらん女には・心をかせ給へ・あやまちして  
き／たはめらん女には・心をかせ給へ・あやまちして・
- 5 みむ人の・かたくなゝる・名をも・たてつへき物な  
みん人の・かたくなゝる・名をも・たてつへき物な
- 6 りと・いましむ・中将れいのうなつく・きみもすこ  
り／と・いましむ・中将れいのうなつく・きみもすこ
- 7 しかたゑみて・さる事とはおほすへかめり・いつかた  
し／かたゑみて・さる事とはおほすへかめり・いつかた
- 8 につけても・人わろくはしたなかりける・み物かたり  
に／つけても・人わろくはしたなかりける・み物かたり
- 9 かなとて・うちわらひおはさうす・中将なにかしは・しれ  
かなとて・うちわらひおはさうす・中将なにかしは・しれ
- 10 もの、物かたりをせんとて・いとしのひてみそめ  
物のものかたりをせむとて・いとしのひてみ／そめ

【一六紙】

- 1 たりし人の・さてもみつへかりしけはひなり  
たりし人の・さても見つへかりしけはひ／なり
- 2 しかは・さしもなからふへき物とは・思給へさりしかと・なれ  
しかは・さしもなからふへき物とは・思給へさり／しかと・なれ
- 3 ゆくまゝに・あはれとおほえしかは・たえく／わすれぬ  
ゆくまゝに・あはれとおほえしかは・たえく／わすれぬ
- 4 ものに・思たまへしを・さはかりになれは・うちたのむけ  
ものに・思たまへしを・さはかりになれは／うちたのむけ
- 5 しきなどもみえき・たのむにつけては・うらめしと思事  
しきなどもみえき・たのむにつけては・うらめしと思事
- 6 もあらむと・こゝろなからおほゆるおりくも侍しを・  
もあらんと・こゝろなから／おほゆるおりくも侍しを
- 7 みしらぬやうにて・ひさしきとたえあれと・かう  
みしらぬやうにて・ひ／さしきとたえあれと・かう
- 8 たまさかなる人とも・思へらすた、あさゆふに・  
たまさかなる人とも／おもへらす。たゝ、あさゆふに・
- 9 もてつけたらんありさまにみえて・心くるしかり  
もてつけたらんあり／さまにみえて・こゝろくるしかり
- 10 しかは・たのめわたる事なともありきかし・  
しかはたのめわた／る事なともありきかし。

【一七紙】

- 1 おやもなく・いと心ほそけにて・さらはこの人こそ  
おやもなく・いと・こゝろほ／そけにてさらは・この人こそ
- 2 はなど・ことにふれておもへるさまも・らうたけなり  
はなど・事にふれて／おもへるさまも・らうたけなり
- 3 しかは・かうのとけきに・おたしくて・ひさしくまか  
しかは・かうのとけ／きに・おたしくて・ひさしくまか
- 4 らさりしころ・このみたまふるわたりより・なさけなう  
らさりしころ・このみたまふるわたりより・なさけなう
- 5 心つきなき事をなん・さるたよりありて・かすめ  
こゝろつき／なき事をなん・さるたよりありて・かすめ
- 6 いはせたりける・のちにこそき、侍しか・さるうき  
いは／せたりける。のちにこそき、侍しか・さるうき／
- 7 事やあらむともしらす・心にはわすれすなからせう  
事やあらんともしらす。こゝろにはわすれすなから／ら・せう
- 8 そこなともせて・ひさしくほとへ侍しに・むけにおもひ  
そこなともせて・ひさしくほとへ侍し／に・むけに・おもひ
- 9 しほれて・心ほそかりければ・おさなきものなども  
しほれて・こゝろほそかりければ・／おさなき物なども
- 10 ありしに・思わつらひてなてしこのはなを、りて・  
ありしに・思わつらひて・なて／しこのはなをおりて・

【一八紙／後】

- 1 こなつにしくものそなき・やまとなてしこをは・  
こなつにしくものそなきやまとな／てしこをは・
- 2 さしおきて・まつちりをたになと・おやの心をとる  
さしをきてまつ／ちりをたに／なと・おやのこゝろをとる
- 3 うちはらふ袖もつゆけきとこなつにあら  
うちはらふそても露けきとこなつに／あら
- 4 しふきそふあきもきにけり・とはかなけにいひ  
しふきそふ秋もきにけりと・はかなけ／にいひ
- 5 なして・まめくしくうらみたるさまもみえず・なみたへを  
なして・まめくしく・うらみたるさまも／みえず・なみた
- 6 おとしも・いとつ、ましけに・まきはしかくして・  
おとしも・いと・つ、ましけに・まきはしかくして・
- 7 つらきをも・おもひしりけりとみえむは・わり  
つらきをも・おもひしりけり／りとみえむは・わり
- 8 なく、るしき物とおもひたりしかは・心やすく  
なく、るしき物とおもひたりしかは・こゝろやすく
- 9 て・又とたえおき侍しほとに・あともなくこそかき  
て・又・とたえをき侍し／ほとにあともなくこそかき
- 10 けちてうせにしか・またよにあらは・はかなきぞら  
けちてうせにし／か・またよにあらは・はかなきぞら

【一九紙／前】

- 1 おこせたりしとて・なみたくみたり・さてその  
をこせたりしとてなみ／たくみたり・さてその
- 2 ふみのことは、と、ひたまへは・いさやことなる事も  
ふみのことは、ととひたまへは・いさやことなる事も
- 3 なかりきや  
なかりきや／
- 4 やまかつのかきほあるともおりくにあはれ  
やまかつのかきほあるともおりく／にあはれ
- 5 はかけよなてしこのつゆ・思いてしま、に・まか  
はかけよなてしこのつゆ・思いてしま、／に・まか
- 6 りたりしかは・れいのうらもなきものからいと物  
りたりしかは・れいのうらもなき物から・いと・もの
- 7 おもひかほにて・あれたるい糸の・つゆしけきを  
おもひかほにて・あれたるい糸の・つゆしけきを
- 8 なかめて・むしのねにきほへるけしきむかし物かたり  
なかめて・むしのねにきほへるけしきむかし物かたり
- 9 めきて侍し  
めきて侍し／
- 10 さきまじるいろはいつれとわかねともなほと  
さきまじるいろはいつれとわかねとも／なをと

【二〇紙】

- 1 にそさすらふらん・あはれと思しほとに・わつらはし  
にそさすらふ覽／あはれと思しほとにわつらはし
- 2 けにうらみまとはす・けしきみえましかは・かくも  
けにうらみま／とはす・けしきみえましかは・かくも
- 3 あくかれ・さらまし・こよなきとたえをかすさる  
あくかれさ／#らまし、こよなきとたえをかす・さる
- 4 ものになして・なかくみるやうも侍なまし・  
物にし／なして・なかく見るやうも侍なまし
- 5 かのなてしこのらうたく侍しかは・いかてたつ  
かのなてし／このらうたく侍しかは・いかてたつ
- 6 ねんと思給ふるを・いまにえなんきゝいて侍ら  
ねんと／思給ふるを・いまにえなん・きゝいて侍ら
- 7 ぬ・これこそたまひつる・はかなきためしなめれ・  
ね、こ／れこそ・のたまひつる・はかなきためしなめれ、／
- 8 つれなくて・つらしと思けるもしらて・あはれたえ  
つれなくて・つらしと思けるもしらて・あは／れたえ
- 9 さりしも・やくなき・かた思なりけり・いまは・やうく  
さりしも・やくなき・かた思なりけり、い／まは・やうく
- 10 わすれゆくきはに・かれ・はたえしも・思はなれす  
わすれゆくきはに・かれ・はた・えし／も・思はなれす

【二一紙】

- 1 おりく／・ひとやりならぬむねこかる、ゆふへもあら  
おりく／・人やりならぬむねこか／る、ゆふへもあら
- 2 むとおほえ侍・これなん・えたもつましく・たの  
んとおほえ侍、これなん・えた／もつましくたの
- 3 もしけなき・かたなりける・されはかのさかな物も・  
もしけなきかたなりける、されはかのさかな物も
- 4 思いてあるかたにわすれかたけれど・さしあたりて  
思いてあるかたにわすれ／かたけれど・さしあたりて
- 5 みむには・わつらはしく／ようせすは・あきたき事  
みむには・わつらはしく／ようせすは・あきたき事
- 6 もありなんや・ことのねす、めりけむ・かどくし  
もありなんや・ことの／ねす、めりけん・かどくし
- 7 さも・すきたるつみ・けにおもかるへし・この心もと  
さも・すきたるつみ・けに・をもかるへし、このこゝろもと
- 8 なきも・うたかひそふへければ・いつれとも・つゐに・  
なきも・うた／かひそふへければ・いつれと（も）・つゐに
- 9 思さためすなりぬ・これそよの中や・た、かうそ  
思さためす／なりぬ、これそよの中や・た、かうそ
- 10 とりく／にくらへくるしかるへき・このさま／のよき  
とりく／にく／らへくるしかるへき、このさま／のよき



【二三紙】

- 1 かたのかきりを・とりくしすつへき・くさわひ  
かたのか／きりを・とりくし○すつへき・くさわひ
- 2 ませぬ人は・いつくにかあらむ・きち上天女を・思  
ませぬ人は・／／いつくにかはあらん註きちしやう天女を・おもひ／
- 3 にけんとすれは・ほうけつき・くすしからんこそ・わ  
かけんとすれは・ほうけつき・くすしからんこ／そ・わ
- 4 ひしかりぬへけれとて・みなわらひぬしきふかと  
ひしかりぬへけれとて・みなわらひぬしき／ふかと
- 5 ころにそ・けしきある事はあらん・すこしつ、かた  
ころにそ・けしきある事はあらん・すこしつ、かた
- 6 り申せと・せめらる・しもかしのなかに・なん  
り申せと・せめらる・しもかしの／なかに・なん
- 7 てう事か・きこしめしところはへらむと・いへと・頭  
てう事か・きこしめしところはへ／らんと・いへと・頭
- 8 のきみまめやかにおそしと・せめ給へは・なに事  
のきみ・まめやかに・をそしと・せめ／たまへは・なにこと
- 9 をか・とり申さんと思めくらすに・文章生に侍し  
をか・とり申さむと思めくらす／に・文章生に侍し
- 10 時・かしこき女のためしをなんみ給へし・かの  
時・かしこき女のためしを／なん・み給へし・かの

【二三紙】

- 1 むまのかみの申たまへるやうに・おほやけ事  
むまのかみの申たまへるや／うに・おほやけ事
- 2 をもいひあはせ・わたくしさまのよにすまふへき・  
をもいひあはせ・わたくしき／／まのよにすまふへき・
- 3 心おきてを・思めくらさむかたも・いたりふかく・さえ  
こ、ろをきてを・思めくら／さむかたも・いたりふかく・さえ
- 4 のきは・なま／のはかせ・はつかしく・すへて・くち  
のきは・なま／のは／かせ・はつかしく・すへて・くち
- 5 あかすましくなん・侍しそれは・あるはかせのもと  
あかすましくな／む侍し、それは・あるはかせのもと
- 6 に・かくもむなどし侍とて・まかりかよひしほどに・  
に・かくもむなど／し侍とて・まかりかよひしほどに・
- 7 あるしのむすめとも・おほかりと・き、給へて・はかな  
あるしのむす／めとも・おほかりと・き、たまへて・はかな
- 8 きついでに・いひよりて侍しを・おやき、つけて・  
きついでに・いひよりて侍しを・おやき、つけて・
- 9 さかつきもていて、わかふたつの道・うたふをきけ  
さかつきもていて、わかふたつの道・うたふをきけ
- 10 となん・きこえこち侍しかと・おさ／うちとけても  
と／なん・きこえこち侍しかと・おさ／うちとけても

【二四紙】

- 1 まからず・かのおやのころを・は、かりて・さすかに・か、  
まからず。かの(おやの)ころを・は、かりて・さすかに・か、
- 2 つらひ侍しほとに・いとあはれに・思うしろみ・ねさめ  
つ／らひ侍しほと(に)・いと・あはれに・思うしろみ・ねさめ
- 3 のかたらひにも・身のさえつき・おほやけにつか  
の／／かたらひにも・身のさえつき・おほやけにつか
- 4 うまつるへき・みち／しき事を・しへ侍て・いとき  
うま／つるへき・みち／しき事を・をしへ侍て・いと・き
- 5 よけに・せうそこふみにも・かんなどいふ物・おさ／  
よけ／に・せうそこふみにも・かんなどいふ物・おさ／
- 6 かきませす・むへ／しく・いひまはしなとするに・お  
かき／ませす・むへ／しく・いひまはしなとするに・を
- 7 のつからえまかりたえて・その女を・しとしてなん・  
の／つから・えまかりたえて・そのをんなを・しと／してなん・
- 8 わつかなるこしをれふみつくる事など・ならひ  
わつかなるこしをれふみつくる事／など・ならひ
- 9 侍しかは・いまにそのおんはわすれ侍らねと・けなつ  
侍しかは・いまに・そのおむはわすれはへ／らねと・けなつ・
- 10 かしき・さいしとうちとけむに・むさいの人・かたわ  
かしき・さいしと・うちとけんに・／むさいの・人・かたは

【二五紙】

- 1 なるさまみえんに・はつかしくなむおほえ侍し・ま  
なるさまみえんに・はつかしく／なん・おほえ侍し・ま
- 2 いて・きんたちの御ためには・さしもした、かなる御  
いて・きんたちの御ために／は・さしもした、かなる御
- 3 うしろみは・なに、かはせさせ給はむ・はかなし・くち  
うしろみは・なに、かは／せさせたまはん・はかなし・くち
- 4 をしと・かつみつ、も・た、わかころにつき・すくせ  
をしと・かつ／みつ、も・た、わかころにつき・すくせ
- 5 のひくかた侍めれは・おのこしもなん・しさいな  
のひくかた／侍めれは・をのこしもなん・しさいな
- 6 き物には・はへめると申せは・のこりいはせんとて・  
き物には・／はへめると申せは・のこりいはせんとて・
- 7 さて／おかしかりける女かなと・すかいたまふを・心え  
さて／／おかしかりける女かなと・すかいたまふを・こ、ろえ／
- 8 なから・はなのわたりおこめきて・かたりなす・さていと  
なから・はなのわたりおこめきて・かたりなす、／さて・いと・
- 9 ひさしくまからさりしに・物のたよりに・たちよりて  
ひさしく・まからさりしに・物のたより／に・たちよりて
- 10 侍れは・つねのうちとけむたるかたには・侍らて心や  
侍れは・つねのうちとけむたるかたに／は・侍らてこ、ろや

【二六紙】

- 1 ましき・物こしにてなん・あひて侍・ふすふるに  
ましき・物こしにてなん・あひて侍 　ふすふるに
- 2 やと・おこかましくも・又よきふしなりとも思給  
やと・おこかましくも・又・よき／ふしなりとも思給
- 3 ふるに・このさかし人・はた・かるくしき・物ゑんし  
ふるに・このさかし人・はた・かるく／しき物ゑんし
- 4 などすへきにもあらず・よのことはりを・思とりて・うら  
などすへきにもあらず・世の／ことはりを・思とりて・うら
- 5 みさりけり・こゑもはやりかにて・いふやう・月ころ  
みさりけり・こゑもは／やり・かにて・いふやう・月ころ
- 6 風病 風病  
ふひやうおもきにたへかねて・こくねちのさうやく  
ふひやう・おもきに／たへかねて・こくねちのさうやく
- 7 をふくして・いとくさきによりなむ・えたいめんた  
をふくして・いと・くさきによりなん・えたいめんた
- 8 まはらぬ・まのあたりならずとも・さるへからんさう  
まはらぬ・まのあたりならずとも・さるへからんさう
- 9 しは・うけたまはらむと・いとあはれにむへくしく・  
しは・うけ／たまはらむと・いと・あはれにむへくしく・
- 10 いひいて、侍り・いらへなにとかはいはれ侍らんと、うけ  
いひいて、／はへり・いらへなにとかはいはれはへらん・た、うけ

【二七紙】

- 1 たまはりぬとて・たちいて侍にさうくしくやおほ  
たまはりぬとて・たちいて侍に・さうくしくやおほ
- 2 えけむ・このかうせなんとき・たちより給へと・たか  
えけん・このかうせなん時々・たちより給へと・たか
- 3 やかにいふを・き、すぐさんもいととし、し／はし、やすら  
やかにいふを・き、すぐさんもいととし、し／はし、やすら
- 4 ふへきに・はた侍らねは・けにそのにほひさへ・はなやかに  
ふへきに・はた・侍らねは・けに・そのにほ／ひさへ・はなやかに
- 5 たちぞへるも・すへなくて・にけめをつかひて  
たちぞへるも・すへなくて／にけめをつかひて
- 6 さ、かにのふるまひしるきゆふくれにひるま  
さ、かにのふるまひしるきゆふくれに／ひるま
- 7 すくせといふかあやなさ・いかなる事つけそやと・  
すくせといふかあやなさ、いかなる事つけ／そやと・
- 8 いひもはてす・はしりいて侍を、いて  
いひもはてす・はしりいて侍を・をいて／
- 9 あふ事のををしへたてぬかならはひるま  
あふことのををしへたてぬかならは／ひるま
- 10 もなにかまはゆからまし・さすかにくちとくなどは  
もなにかまはゆからまし、さすかにくち／とくなどは

【二八紙】

- 1 侍きと・しつくと申せは・君たちあさましと・おもはへりきと・しつくと申せは・きみたち／あさましと・おもほして・そら事とりくはふるぞ・いつこのさる女かほして・そら事・とりくはふるぞ／いつこのさる女かあるへき・おいらかに・おにとこそむかひみたらめ・あるへき・おいらかに・おにとこそ／むかひみたらめ・むくつけき事と・つまはしきをして・かのにはむくつけき事と・つまはしき／をして・かのにはひはかけて又まねひなせぞ・いはんかたなしとひはかけて・又・まねひなせぞ・いはんかたなしと・式部を・あはめ・にくみて・ゑせ物かたりなりす式部を・あはめ・にくみて・ゑせ物かたりなり／す
- 7 こしよろしからん事を申せと・せめ給へと・ここしよろしからん事を申せと・せめ給へと・／こ
- 8 れよりめつらしき事は候なんやとて・をり・すへてれよりめつらしき事は・候なんやとて・をり・すへて
- 9 おとも・女も・わる物は・わかかつかに・しれるかたのおとも・女も・わる物は・わか・わつかに・しれるかたの
- 10 ことを・のこりなく・みせつくさむと・おもへるこそ・ことを・のこりなく・みせつくさむと・おもへる／こそ・

【二九紙】

- 1 いとをしけれ・三史・五経・のみち／しきかたを・いとをしけれ・三史・五経・のみち／しきかたを・
- 2 あきらかにさとりたらんこそ・あいきや／うなからめ・あきらかにさとりたらんこそ・あいきや／うなからめ・
- 3 などは女といはんからに・よにある事の・おほやなどは女といはんからに・よにある／事の・おほや
- 4 け・わたくしに・つけて・むけにしらす・いたらすしもけ・わたくしに・つけて・むけにしらす／す・いたらすしも
- 5 あらむ・わざとならひまねはねと・すこしも・かとああらん・わざと・ならひまねはねと・すこしも・かと・あ
- 6 る人の・み、にもめにも・とまる事・しねんに・おほかるる人の・み、にもめにも・とまる事・しねんに・おほかる
- 7 へし・さるまゝには・まんなをはしりかき・さるまじきへし・さるまゝには・まむなを／はしりかき・さるまじき
- 8 とちの女ふみに・なかはすきて・かきす・みたる・とちの女ふみに・なかはすきて／て・かきす・み・たる・
- 9 いてやあまりなりこ・もとの・たをやかならましいてやあまりなり・こ・もとの・たをやかならまし
- 10 かはとみゆかし心ちにはさしもかきすくめんとかはとみゆかし・こ、ちにはさ／しもかきすくめむと

【三〇紙】

- 1 思はさらめども・おのつから・こはくしきこゑに・  
思はさらめども・をのつから・こはくしきこゑに・
- 2 よみなされなとしつ・ことさらひたり・上らうの  
よみなされなとしつ・ことさらひたり・上らうの
- 3 なかにも・おほかることそかし・うたよむとおもへる  
なかにも・おほかる事そかし・うたよむとおもへる
- 4 人の・やかてうたにまつはれ・おかしきふることを  
人の・やかてうたにまつはれ・おかしきふる事を
- 5 も・はしめよりとりこみつ・すさまじきおりく  
も・はしめよりとりこみつ・すさまじきおりく
- 6 よみかけたるこそ・物しき事なれ・かへしせね  
よみかけたるこそ・ものしき事なれ・かへしせね
- 7 は・なさけなし・えせさらん人は・はしたなからん・  
は・なさけなし・えせさらん人は・はしたなからん
- 8 さるへきせち系係など・五月五日のせちなとに・  
さるへきせち系係など・五月五日のせちなとに・
- 9 いそきまいるあした・なにのあやめも・思し  
いそきまいるあした・なにのあやめも・思し
- 10 つめられぬに・えならぬねをひきかけ・九月九日  
つめられぬに・えならぬねをひきかけ・九月九日

【三一紙】

- 1 のえんに・まつかたきしの心を・思めぐらし・いとま  
のえんに・まつかたきしの心を・おもひめぐらし・いとま
- 2 なきおりに・きくにつゆを・かこちよせなどや  
なきおりに・きくにつゆを・かこちよせなどや
- 3 うの・つきなきいとなみにあはせ・さならても・お  
うの・つきなきいとなみにあはせ・さならても・を
- 4 のつから・けにのちにおもへは・おかしくも・あはれにも・  
のつから・けにのちにおもへは・おかしくも・あはれにも・
- 5 あへかりける事の・そのをりふし・つきなく・めに  
あへかりける事の・そのおりふし・つきなく・めに
- 6 とまらぬなどを・をしはからす・よみいてたる・中く・心  
とまらぬなどを・をしはからす・よみいてたる・中く・心
- 7 おくれてみゆ・よろつことに・なとかは・さてもとおほ  
をくれてみゆ・よろつの事に・なとかは・さてもとおほ
- 8 ゆるおりから・ときく思わかぬはかりの心にては・よし  
ゆるおりから・ときく思わかぬはかりの心にては・よし
- 9 はみなさけた・さらむなむ・めやすかるへき・す  
はみなさけた・さらんなん・めやすかるへき・す
- 10 へて・心にしれらんことをもしらすかほにもてな  
へて・心にしれらんことをもしらすかほにもてな

【三三紙】

- 1 し・いはまほしからんことのはをも・ひとつふたつ  
し・いはま／ほしからんことのはをも・ひとつふたつ
- 2 のふしは・すくすへくなんあへかりけるなどいふ  
のふしは・／すくすへくなんあへかりけるなどいふ
- 3 にも・きみは・人ひとりの御ありさまを・心のうちに  
にも・きみは・人ひとりの御ありさまを・ころのうちに
- 4 おもひつゝけたまふ・これにたらず・又さしすき  
思つゝけ／たまふ・これにたらず・又・さしすき
- 5 たる事なく・物したまひけるかなと・ありかた  
たる事なく・ものしたまひけるかなと・ありかた
- 6 きにも・いとゝむねふたかる・心地し給・いつかたによ  
きにも・いとゝゝむねふたかる（心ちしたまふ）いつかたによ
- 7 りはつともなくて・はて／＼は・あやしきろむとも  
りはつともなく・はて／＼／＼は・あやしきろむとも
- 8 になりて・あかしたまふつゝからうして・けふは  
になりて・あかしたまふつゝ／＼からうして・けふは
- 9 ひのけしきもなをれり・かくのみこもり候給  
ひのけしきもなをれり・かくのみこもり候たまふ
- 10 も・おほい殿の御心いとをしけれは・まかて給へり・  
も・おほい殿の御こゝろ・いとおしけ／＼れは・まかてたまへり。

【三三紙】

- 1 おほかたのありさまも・人の御けはひも・けさや  
おほかたのありさまも・人の御けはひも・けさや
- 2 かに・けたかく・みたれたるところましらす・つしやか  
かに・けたかく・みたれたるところましらす・つしやか
- 3 に・なをこれこそは・かの人々の・すてかたく・とりい  
に・なをこれこそは・かの人々の・すてかたく・とりい
- 4 てし・まめ人には・たのまれぬへけれど・おもほす  
てし・まめ人には・たのまれぬへけれど・おもほす
- 5 ものから・あまりうるはしき・御さまのとけかた  
物から・あまりうるはしき・御さまの・とけかた
- 6 く・はつかしとのみ思しつまり給へるを・さう／＼  
く・はつかしとのみ思しつまり／＼たまへるを・さう／＼
- 7 しくおもほして・中納言のきみ・なかつかさなとや  
しくおもほして・中納言のきみ・なかつかさなとや
- 8 うのおしなへたらぬ・わか人ともに・たはふれ事  
うのをしなへたらぬ・わか人／＼ともに・たはふれ事
- 9 などのたまひつゝ・あつさにみたれたまへる・御あ  
などのたまひつゝ・あつさに／＼みたれたまへる・御あ
- 10 りさまをみるかひありとみな思きこえたり・  
りさまを・みるかひありと／＼みな・思きこえたり。

【三四紙】

- 1 おと、もわたりたまひて・うちとけたまへれば  
おと、もわたりたまひて・うち／とけゆたまへれば・
- 2 御き丁へたて、おはしまして御物かたりきこ  
御き丁へたて、おはしまして／御物かたりきこ
- 3 え給を・あつきにと・にかみ給へは・人くわらふ・あ  
え給を・あつきにと・にかみ給へは・人くわらふ・あ
- 4 なかまとて・けうそくによりおはす・いとやすら  
なかまとて・けうそく編註によりおはす・いと・やすら
- 5 かなる・御ふるまひなりや・くらうなるほどに・  
かなる・御ふるまひなりや、くらくなる／ほどに・
- 6 こよひなか、み・内長神よりはこなたはふたかり侍り  
こよひ・なかかみ・内よりはこなたはふたかり侍り
- 7 けりと・人くきこゆるを・さかし・れいもいみたまふ  
けりと・人くきこゆるを・さかし・れいもいみたまふ
- 8 かたなりけり・二条院もおなしすちにて・いつく  
かたなりけり、二条院もおなしすちにて・い／つく
- 9 にかたかへん・いとなやましきにとて・おほとのこも  
にかたかへん・いとなやましきにとて・おほ／／とのこも
- 10 れり・いとあしき事なりと・これかれきこゆ・き  
れり、いと・あしき事なりと・これかれきこ／ゆ・き

【三五紙】

- 1 のかみにて・したしうつかうまつる人の・なか、は  
のかみにて・したしうつかうまつる人の・／なか、は
- 2 のわたりなるいへなむ・このころ水せきいれて・  
のわたりなるいへなん・このころ水せきいれて／て
- 3 す、しきかけに侍ときこゆれば・いとよかなり・なや  
す、しきかけに侍ときこゆ（れば）・いとよかなり・な／や
- 4 ましきに・ひきいれておりぬへからんところをと・のたま  
ましきに・ひきいれておりぬへからんところを／と・のたま
- 5 ふ・しのひくの御かたかへところは・あまたありぬへけ  
ふ、しのひくの御かたかへところは・あまたありぬへけ
- 6 れと・ひさしくほどへて・わたりたまへるに・かたふたけ  
れと・ひさしくほどへて・わたりたまへるに・かたふたけ
- 7 て・ひきたかへほかさまへとおほさむは・いとをしきな  
て・ひきたかへほかさまへとおほさむは・いとをしきな
- 8 るへし・きのかみにおほせことたまへは・うけたまはり  
るへし・きのかみにおほせことたまへは・うけたまはり
- 9 なからしそきて・いよのかみのあそむのいへに・つ、  
なからしそきて・いよのかみのあそむのいへに・つ、
- 10 しむ事侍て・女房なむまかりうつれるころに  
しむ事侍て・女房／／なんまかりうつれるころに

この調査は、平成二六年度学習院大学人文科学研究所「若手研究者研究助成」(研究題目:「学習院大学日本語日本文学科所蔵『源氏物語』「帚木」巻の書誌調査)を受けて行なったものである。  
貴重な資料の撮影及び掲載をご許可くださった学習院大学文学部日本語日本文学科に御礼申し上げます。

*Key Words:* Kawachibon -series, “Hahakigi”, Manuscript of the Kamakura period, Tameie Fujiwara Bishu family

ENGLISH SUMMARY

Commentary on and reprint of “Hahakigi”, the second chapter of *Genji Monogatari* (a possession of the Department of Japanese Language and Literature at Gakushuin University)

MUTO Nagako

The Department of Japanese Language and Literature at Gakushuin University possesses the holdings of “Hahakigi” (“The Broom Tree”), the second chapter of *Genji Monogatari* (*Tale of Genji*) copied by Tameie Fujiwara. It is originally written based on a Kawachibon-series enacted by the two governors of the Kawachi area.

Two facts suggest that a close relationship exists between the Kawachibon-series and the Bishūkebon (the book that the Bishū family had): its exceptionally large size (over 30cm) and the style of writings in the middle of the Kamakura period. The Bishūkebon is representative of the Kawachibon-series, its historical significance.

This paper presents a bibliographical commentary and an entire reprint of this book. The bibliographic commentary has not been made public; only a part of the text was taken up by Yōsuke Katō, in a comparison of the Kawachibon-series. Moreover, a manuscript of *Genji Monogatari* from the Kamakura period is valuable because of its scarcity.